

### 三 東三省の政情と易幟問題

164 昭和3年6月17日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

張作霖死亡ならびに南北統一に関する袁金鑑

の談話について

奉天 発  
本省 6月17日後着

第三二九号

十六日袁金鑑ノ河野ニ語レル處ニ依レハ張作霖ハ既ニ死亡セルモ動搖ヲ怖レ秘シ居ル次第ニテ何レ張学良帰奉後發表スヘシ奉天省議會議長ハ十三日三省団体代表ト時局ニ関シ談話会ヲ開ケル際代表中ニハ（一）速ニ南北統一ヲ計ルコト（二）

楊宇霆、張學良ノ帰奉ヲ促スコト等モ話題ニ上レル趣ナル  
処奉軍ハ既ニ戰意ヲ棄テテ兵ヲ軍糧城、瀋州、山海關一帯ニ集メ其ノ配屬ヲ定メ整頓中ニテ之カ為張學良、楊宇霆ハ未タ帰奉シ得サルモ學良ハ近ク帰奉スヘク又南北統一ノ提倡ハ一部ノ間ニナキニアラサルモ劉省長初メ一般官民ハ此

文治派ノ策動ハ稍打擊ヲ受ケタル模様ナルカ文治派ハ大体此ノ際東三省保安会ヲ作リ軍政ハ之ヲ保安總司令ニ讓リ民政ハ保安會長タル文官ヲシテ之ヲ司ラシメタキ意向ラシク之ヲ連省自治タラシムルカ各省自治タラシムルカ定マラサル間ニ張學良ニ於テ父同様ノ絶対權ヲ振ハントスルノ意向仄見ヘタルヨリ意氣消沈セルモノナル由ナリ尚瀋州ニハ張學良ノ許ニ孫傳芳、羅文幹等隨從シ居レリト云フ

北京へ転電セリ

166 昭和3年6月19日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

張學良帰奉ならびに對南方關係に関する減式  
毅の談話について

奉天 発  
本省 6月19日前着

第三三七号

十八日減式毅ハ蜂谷ニ對シ張作霖重態ニ陥リタル結果（減  
ハ行キ懸り上今尚死亡説ヲ否認シ居レリ）張學良本十八日  
帰奉シタルカ瀋州ノ兵モ出來得ル限り速ニ纏メテ帰還シ將

ノ際国民政府ト連絡ヲ遂ケ青天白日旗ヲ掲揚スルカ如キコト絕對ニナカルヘシ云々

北京へ転電セリ

165 昭和3年6月17日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

東三省保安總司令に就任するとの張學良の言明について

奉天 発  
本省 6月17日後着

第三三一号

奉天省議會議長張成算外三省議會議員數名ハ數日前當地発瀋州ニ赴キ張學良、楊宇霆及張宗昌ニ面会セルカ其ノ際張學良ハ楊及張宗昌ノ面前ニ於テ何レ帰奉ノ上東三省保安總司令ノ職ニ就クヘキ旨ヲ語レル由ニテ之カ為當地ニ於テハ袁金鑑及王樹幹等ヲ中心トシテ最近醸釀シツツアリシ軍民

來閨内トノ戰争ヲ避クルニ力ム可ク南方トノ關係例ヘハ青天白日旗掲揚問題ハ東三省側トシテ甚タ難カシキ問題ナルカ自分トシテハ飽迄山海關以北ニハ同旗ノ勢力ヲ及ホサンメナル様努力スル考ナリト述ヘタリ  
北京ニ転電セリ

167 昭和3年6月20日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

張學良は今後奉天省の政務は軍民両政を區別し自分は單に軍政を專行すべき旨宣言について

奉天 発  
本省 6月20日後着

第三四二号

十九日当地上將軍公署ニテ舉行セル張學良ノ督弁代理就任披露ニ列席セシ袁金鑑ノ河野ニ語レル處ニ依レハ學良ハ奉天省政務督弁ノ印綬ヲ接受セル後巨頭數名ニ對シ今後奉天省ノ政務ハ明カニ之ヲ軍民両政ニ區別シ自分ハ單ニ軍政ヲ專行スヘキ旨宣言セリ右ノ結果從來ノ上將軍公署ハ督弁公

### 三 東三省の政情と易幟問題

署ト改マリ東三省保安総司令ノ名ハ消滅シ三省ハ愈々分省自治トナル次第ナルカ学良ハ近ク当地ニ組織サルヘキ奉天省保安会長ヲ兼任スヘシ又吉林督弁ハ今迄通ニテ吳泰來ハ

今後適当ノ時機ニ於テ黒龍江省ノ兵權ヲ萬福麟ニ移スヘク既ニ吳モ之ヲ諒解セリ民政ニ関シテハ劉省長以下一般ニハ當分更迭ヲ行ハサルモ劉ハ既ニ辭意ヲ洩シ居レハ或ハ其ノ内ニ更迭ヲ見ルヤモ知レス從来張作霖ノ勢力下ニアリン当地官銀号ハ劉ノ節制ニ移シ辺業銀行ハ之ヲ解散スルカ若ハ

地方ノ金融機関ニ改ムル筈将来東三省分離ストモ對外關係ノ緊切ニ顧ミ研究会系ノ羅文幹ヲ奉天ニ招キ客員トシテ外交統一ヲ計ラシムルヤモ計ラレス孫傳芳ハ張作霖トノ過去ノ關係上捨置ク能ハサルモ目下孫ニ与フヘキ適當ナル地位無キカ如シ云々

北京、天津、上海、吉林、哈爾賓、齊々哈爾ニ転電セリ

~~~~~

168 昭和3年6月20日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

青天白日旗掲揚問題に対する我方のとるべき態度請訓

ヤト想像セラルル處我方トシテハ斯ノ如キ場合發生ニ際シ如何ナル態度ヲ執ル可キヤ將又斯ノ如キ場合ヲ發生セシメサル様子メ何等カノ手段ヲ執ル必要アリヤ御考究ノ上御回示アリタシ

~~~~~

169 昭和3年6月25日 田中外務大臣より  
在奉天林總領事宛（電報）

東三省の現状維持保境安民に関する我が出先  
官憲に対する心得について

本省 6月25日後発

第一〇二号

貴電第三一五号末段ノ意見ハ當方ニ於テモ全然同感ナルモ

國民軍ノ内部ニ於ケル蔣、馮、閻間ノ關係モ近キ将来如何ニ發展スルヤ俄ニ予断シ難ク又從テ国民政府ノ政治的色彩モ自然変転ヲ免レサルヘク周密ナル注視ヲ要スル時機ナルニ付、東三省側トシテモ此際アワタダシク南方ニ対シ迎合的態度ヲ執ルノ必要ハ毫モ無之カルヘキノミナラス寧ロ危険ナリト思考セラレサルニ非ス旁々暫ク現状ヲ維持シ保境安民ヲ以テ形勢ノ維持ヲ觀望スルコトハ東三省自身ニ取リ

奉天 本省 6月20日後着 第三四三号

青天白日旗ニ対スル我方ノ態度ハ目下御考究中ナル旨御來示ノ次第アリタル処南方支那側ニ於テハ今後東三省ニモ同旗ヲ揚ケシムル為漸次所有手段ヲ運ラシテ運動ヲ進ムルナル可ク現ニ今日ニ於テモ既ニ邢士廉、于珍、傅作義等ハ奉天派ト南方側トノ間ニ立チ連絡ヲ計リツツアルヤニ伝ヘラルカ之ヲ我国ノ立場ヨリ見レハ青天白日旗ヲ東三省ニ揚ケシムルハ必竟南方勢力ノ侵入ニ外ナラス從テ我特殊權益地タル滿州ヲ南北政争ノ渦中ニ陥ラシメ我平和的經濟發展ヲ阻害スル惧アルヲ以テ出来得可クムハ之ヲ阻止シ飽迄五色旗ヲ繼續セシムルノ得策ナルヲ思ハシムルニ依リ差当リ将来何等差障ヲ残ササル様注意ヲ加ヘタル上當地支那側ノ要人ニハ夫ト無ク青天白日旗ノ好マシカラサルヲ諷セシメツツアル次第ナルカ我國ニ於テ好ムト好マサルトヲ問ハス一般大勢ハ支那本部ノ形勢ニ順応スルニ至ル可ク仮令近キ将来ニ於テハ我態度ヲ憚リ五色旗ヲ繼續スルモ躊躇テハ一般民勢ニ押サレテ青天白日旗ヲ掲揚ノ余儀無キニ至ルニ非ス

テモ必要ナルヘク我方ノ立場ヨリ言フモ望マシキ義ナルカ故ニ東三省ニ於ケル我出先官憲カ右ノ如キ心持ニテ此複雜機微ナル時局ニ善処セムコトヲ希望セサルヲ得ス右御含ノ上然ルヘク御指導アリ度シ

~~~~~

170 昭和3年6月26日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

東三省の内政、対日提携および对国民政府交渉に関する丁鑑修の内話について

奉天 本省 6月26日後着

第三六七号

(<sup>(1)</sup>三五文書) 二十六日丁鑑修ノ河野ニ極秘トシテ語レル處ニ依レハ張學良ハ帰奉以来既ニ数回重要會議ヲ開キ時局問題ニ付協議シツツアル處既ニ確定のノ事項トシテハ  
(一)今後東三省ハ分省自治ニ依リ内政ハ三省分離シ専ラ民意ヲ尊重シ統治ニ努メ外交ハ連省協議ヲ経ルコトトシ三省連合機関ヲ通シ各地關係交渉署ヨリ外國領事ニ交渉スルコト（此ノ決定ニ基キ奉天交渉員高清和ハ遠カラス他ニ

### 三 東三省の政情と易幟問題

更迭ヲ見ルへク後任者ハ目下銓衡中)

(二) 多年東三省ニ於ケル日支關係ニ欠陥アリシニ顧ミ今後ハ親日主義ヲ採リ日支提携ニ尽スヘク張學良ハ自ラ進ンテ右ノ趣旨ヲ黒吉両督弁ニ諮リシ処何レモ贊意ヲ表シ來レ

リ尤モ奉天地方各法團側ヨリノ希望モアリ民意順応ヲ先決問題トシテ対日外交ヲ考究スル筈

(三) 三省保境安民主義実施ノ結果三省ハ三省人ニ依リ自治ニ依ルヘク他省ノ人物ハ一切重要地位ヲ与ヘサルコト(此ノ結果張作霖ト從前關係厚キ孫傳芳、羅文幹、梁士詒、潘復等ノ如キハ絶対ニ要職ニ任命セサルコトヲ申合セタリ)

又目下協議中ノ事項ニシテ略確定ニ近キモノハ

(イ) 東三省保安總司令ノ職務ハ張作霖時代ニハ三省軍民両政ヲ殆ト一人ニテ裁決スル權能ヲ有セシモ學良ハ三省ハ三省人ノ天地ナレハ總司令ニ於テ諸政ヲ専行スルノ不当ナルヲ了解シ居リ又張作相ハ湯玉麟、汲金純等ノ同僚ヲ差措キ總司令ニ就職スルハ人情友誼ニ考ヘ遠慮セサルヘカラスト迄切出シ居ル為三省議員並ニ法團側ニ於テハ作相ノ胸底ヲ忖度シ愈々學良ヲ推ス事ニ略々決セル趣ナレハ

不日學良ニ決定スヘシ

(ロ) 軍政ハ三省ニ各保安司令ヲ置キ奉天省ニテハ學良カ總司令兼奉天省保安司令ニ任セラルヘク民政ハ各省分離スト雖亦連合統一ノ必要アルヲ以テ三省長ハ連合行政討議機関ヲ設ケ別ニ委員ヲ置キ行政ノ統一ニ務ムル事(奉天省ニテハ王樹幹袁金鑑閔政務府長等ヲ委員ニ任スル模様ナリ)

(ハ) 奉天省ニ於テハ差當リ各行政官庁ニ委員会ヲ設ケ地方名望家ニシテ行政ニ経験ヲ有スルモノヲ委員ニ選定スヘク目下夫々調査研究中

次ニ東三省對国民政府ノ交渉ニ付テハ從来楊宇霆、張學良專ラ折衝ニ努メタル処今後ハ三省ヨリ各一、二名ノ委員ヲ選定シ北京ニ赴キ交渉セシムルコトニ決セルカ其ノ人物ニ関シテハ成ルヘク民衆中ヨリ選出スヘク奉天省ヨリハ袁金鑑、王樹幹程度ノ者ヲ挙クルコトニ略々決定セリ目下邢士廉來奉セルモ同人ニ對シテハ余リ立入りタル協議モ出来サル嫌アリ邢ハ奉天側ニ對シ(一)青天白日旗ノ掲揚(二)三民主義ノ承認ヲ迫リツツアルモ元來奉天側ハ国旗ノ掲換ニ付テハ頑張ラサルモ三民主義ニ付テハ大ニ異議アリ尚熱河特別区

ノ東三省編入、三省自治ニ依ル省内徵收稅捐ノ費途、将来三省ニ進軍セサル声明ノ確保、三省要職ニハ絶対ニ國民政府ノ人物ヲ採用セサルコト等多岐ニ涉ル要求条件アリ故ニ双方提出ノ条件ヲ協議スルニハ今後相當ノ日子ヲ要スヘク右決定ヲ見ル迄ハ楊宇霆ハ瀋州ニ踏止マリ南軍ノ侵入ヲ防止スルヲ要ス尚今後楊宇霆ノ地位ニ閑シテハ相當考慮ヲ要スル問題ナルカ本人ハ飽迄學良ヲ輔佐スヘシト称シ居ル趣ナリ云々

北京、吉林、哈爾賓、齊々哈爾ヘ転電セリ

171 昭和3年6月27日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

閨内奉天軍撤退に関する張學良の土肥原への

談話について

奉天 発  
本省 6月27日後着

第三七三号

(第一) 山東軍ノ後始末ヲ為ス必要アリ(第二)ニハ京津方面撤退ニ際シ南方ヨリ孔繁霨ヲ派遣シ奉天軍ニ於テ瀋州以北ニ撤退スルニ於テハ進撃セサルコトヲ約セルコト(第三)ニハ戰術ノ上ヨリ瀋州以北ヲ所有スルコト頗ル有利ナルヘキトノ理由ヨリ今尚閑内ニ駐兵シ居ル次第ナルカ既ニ三、四方面軍ノ三分ノ一ハ閑外ニ撤去シ終リ行々ハ全部ヲ閑外ニ撤退シ閑内ニハ一兵モ残サル様シ度キ希望ナリ尚楊宇霆ニ閑シテハ世間幾多ノ非難アルモ同人ハ一種ノ才物ニシテ幾多ノ長所ト短所ヲ有シ父張作霖ハ楊ノ短所ヲ增長セシメタル嫌アリ自分トシテハ今後大ニ此ノ点ニ注意スル積リナルカ日本側ニ於テモ此ノ点ヲ了解セラレ余リ楊ヲ非難攻撃シ其ノ神經ヲ過度ニ刺戟セサル様希望ス云々

北京ニ転電セリ

172 昭和3年7月4日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

楊宇霆派および王樹幹派等の対日態度と青天

白日旗掲揚問題について

張學良ノ土肥原ニ語ル所ニ依レハ目下瀋州方面ニ駐屯中ノ奉天軍ハ必スシモ永ク駐屯セシムル積リニアラス差当リハ

奉天 7月4日後発  
本省 7月4日後着

## 第三九四号

土肥原カ袁金鑑ト同行于冲漢ヲ訪ヘル陶尚銘ヨリ及ヒ鎌田カ于冲漢等ヨリ聞込ム処ヲ綜合スルニ現在当地政情ハ略二派ニ岐レ一ハ楊宇霆系トモ認ムヘキ于珍、鄭謙、于國翰、

邢士廉、羅文幹、常蔭槐等ニテ過般李烈鈞ヨリ大連陶家瑤ヲ通シ電報ニテ近時日本側対支策ノ惡辣ナルニ顧ミ此ノ際

挙国一致日本ニ当ルヲ要スヘキヲ以テ速ニ青天白日旗ヲ掲

ケ対外一致ノ行動ヲ採ルヘキ旨懸漣シ来レル趣ニテ之ニ大体同意スル者ニ前記一派アリ他ノ一派ハ王樹幹袁金鑑ノ在

野党ニシテ日本ノ對滿政策仮令恐ルヘシトスルモ爾ク容易ニ手ヲ下シ得ヘキニ非ス否事実ハ斯ル野心ヲ認メス又新督

弁ニ対シテモ好意的ナルヲ認ムル故ニ此ノ際日本側ニ或ル程度ノ援助ヲ求メ速ニ三省ノ自治ヲ固ムルヲ得策トスヘシ

ト云フニアリ于冲漢モ全然右意見ニ賛成シタル趣ナルカ右ニ閔シ三日土肥原カ学良ニ意見ヲ求メタル處学良モ大体後者ニ賛成シ居ルモ唯目下閔内馮、閻、蔣ノ關係甚タ機微トナリツツアリ分裂ノ兆アルニ鑑ミ此ノ際余リ東三省側ニテ

以北ニ引揚クルモノニシテ山海關ヨリ六十支里以内ニ入り之ニテ引揚ヲ完了シ第三期トナル次第ナルカ何時第二期ヨリ第三期ニ入ルヤ未タ判明セス右ハ目下京津方面ニ派遣シタル王樹幹、于珍等ト国民党幹部トノ交渉ニ依リ決定スヘシ王等代表ハ蔣介石ノ秘密ノ希望ニ依リ今尚天津ニアリ馮玉祥一派カ北京ヲ去レル後上京シ交渉スル筈ナルカ當方ノ希望ハ第一、青天白日旗ヲ揚ヶス第二、國家統一ニハ賛成スルモ国民党ニハ屈服セス依テ国民會議ヲ開キテ決定スヘク右決議ニ依リ國旗其ノ他ノ問題ヲ決定ス第三、熱河ヲ奉天派ノ所屬トス第四、目下唐山地方ニ在ル山東軍（約七万アリテ目下奉天ヨリ月額十五万円ヲ給ス）ヲ南軍ニ改編スルコト等ナルカ右ニ付同意ヲ得レハ直ニ第三期状態ニ移ルヘシト答ヘタリ

依テ本官ハ永ク第二期状態ニ止マルハ南軍ノ反感ヲ買ヒ並ニ北伐ヲ開始セシムルノ動機ヲ作ル虞アルヤニ非スヤト質

潔州以北ニ撤退スレハ北伐セストノ了解ハ既ニ孔繁霨ヲ通

シテ閻錫山及蔣介石トノ間ニ成立シ居ルヲ以テ問題ハ馮玉祥及白崇禧等ノ意向ナルカ馮ト閻ノ間ハ到底円満ナルヲ得セルニ

奉天 7月4日後発  
本省 7月4日後着

対南旗幟ヲ鮮明ニスル事ハ却テ彼等ノ團結ヲ來シ我方ニ不利益ナルヲ以テ暫ク不即不離ノ態度ヲ採ル考ニテ旁本日通電ヲ發スル積リナリ（右通電ハ往電第三九五号ノ通）青天白日旗ノ如キモ将来統一セル政府樹立セハ兎モ角国民党勢力ノ現状ニテハ掲クル要ナシ云々ト答ヘタル由御参考迄在支公使ヘ転電セリ

173 昭和3年7月(9)日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

関内奉天軍引揚計画および共産党取締りに関する張學良との会談について

奉天 7月9日後着

## 第四〇八号（極秘）

貴電第一一〇号ニ閔シ

九日張學良ヲ往訪シ閔内駐防ノ奉天軍引揚ニ閔スル時期及計画ニ閔シ明確ニ承知シ度シト尋ネタルニ閔内駐防奉天軍ノ引揚ニハ三期ノ計画アリ第一期ハ灤河左岸ヘノ引揚ニテ之ハ既ニ終了セリ第二期ハ現在ノ地点ヨリ北戴河、南山線

ヘカラス極メテ内密ノ談ナルモ出来得レハ閻及蔣等ト謀リ馮玉祥ヲ打倒スル計画モ無キニ非ス尚其際ニハ出来得ル文李宗仁等ヲモ引込ム積リナリト述ヘタルニ依リ更ニ本官ハ右馮玉祥打倒計画ハ再ヒ東三省ヲ閔内ノ争闘ニ携ハラシムルノ危険アリト注意セルニ其ノ場合ニハ奉天軍ヲ用ヒス山東軍ヲシテ当ランムル積リナリト答ヘタリ

次ニ赤賊討伐ハ故大元帥ノ掲ケタル大目的ニシテ我政府ニ於テモ支那ニ於ケル共產党活動ニハ甚大ノ注意ヲ払ヒ居ル處責総司令ノ意見如何ト尋ネタルニ自分ハ支那ハ赤化ノ烟ニ非スト考ヘ居ルヲ以テ本問題ヲ余リ重大視セス作霖ノ討赤ハ看板ニ用ヒタルモノニシテ深キ意味ナシ但共產党ノ活動ハ決シテ許スヘキニ非サルヲ以テ嚴重ナル取締ヲ為スハ勿論ナリト答ヘタルヲ以テ本官ハ労農側ノ隱密ナル宣伝ノ頗ル恐ルヘキモノナルヲ語リ嚴重ナル警戒ヲ要スル旨ヲ注意シ置キタリ

北京へ転電セリ

174 昭和3年7月14日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

張學良の命により陶尚銘等來館し東三省省政

の刷新方に関し日本側の援助要請について

北京へ転電セリ

の刷新方に関し日本側の援助要請について

奉天 7月14日後発

本省 7月14日後着

第四一九号

七月十三日陶尚銘、王家楨ノ兩人張學良ノ命ニ依リ來訪シ

折柄本官接客中ナリシ為河野ヲシテ面接セシメタルニ学良

ハ督弁就任以來銳意省政ノ刷新ニ着目シ月下研究中ノ問題

ハ(一)三省塩稅ノ輕減(二)常關ノ裁撤(三)國民教育ノ普及及四裁

兵修路屯田ノ實行(五)委員ヲ各國ニ派シ政治經濟事情ヲ調査

ス(六)制度ノ整頓(七)兵制改革(八)所得稅、遺產稅ノ實施(九)教育

費ノ增加(十)漸次禁煙ヲ實行(十一)公債ノ強制募集廃止等ノ十

一項ナリ

而シテ學良ニ於テハ右實行ヲ急キツツアルカ其ノ實行ニ関

シテハ日本側ノ援助ヲ仰ク可キモノ多々アルヘキニ依リ予

メ本官ニ通知方命令ニ接シタル次第ナリト述ヘタリ翌十四

日河野カ鄭謙ヲ訪問シタル際ニモ鄭ハ右ト同様ノ申出ヲ為

シ並ニ詳細ニ説明ヲ加フル處アリタリ

委細公信

175 昭和3年7月17日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛(電報)

蔣介石側代表より東三省政治分会設置等申入

れに関する張學良の談話について

奉天 7月17日前着

本省 7月17日前着

第四二二号

張學良ヨリ服喪中外出シ得サルニ依リ來談ヲ煩ハス旨申来

レルニ付十六日往訪セル處張ハ其ノ好意ヲ謝シタル後実ハ

今回蔣介石ヨリ代表張同礼(元財政總長張孤ノ息)及劉光

(軍官學校校長)ノ二名來奉シ

(一)東三省ニ政治分会ヲ設ケ委員九名ヲ挙ヶ學良ヲ分會長ニ

推シ軍事建設財政民生商工農鉱ノ各事務ハ東三省人之ニ

当リ残リ二名南方人物ヲ入レ一定職務ヲ有セサル委員ト

スル事

(二)青天白日旗ヲ掲ケ學良ヨリ通電ヲ發シ三民主義實施ヲ宣

布スル事

- (一)東三省ノ政治ニハ國民政府ニ於テ干渉セサル事  
(二)國民政府ノ宣伝者ヲ三省ニ入ラシメサル事  
(三)共產黨國民黨宣傳員ノ識別付カサル為一切ノ宣傳ヲ用ヒサル事  
(四)熱河ヲ東三省ニ於テ保有スル事  
(五)三項ニ対シ承認ヲ与フルニ於テハ國民政府側ノ要求ヲ講

究スヘシトテ目下照会中ナルカ自分ハ貴總領事ヲ日本政府代表者ト見ス全ク顧問ノ如ク考ヘ衷心友誼ニ訴ヘ何事モ打明ケテ相談スル次第ナルカ今明日中ニ三省首腦ヲ召集シ会議ヲ開キ協議スル積リナルカ御意見ヲ承ハリ度シト云ヘルニ付本官ハ日本ノ三省ニ對スル態度ハ既ニ表明セル通り治安維持ニアルモ貴總司令就任日浅ク基礎未タ鞏固ナラス貴總司令ノ為ニ計ルニ政治制度ノ変革等ハ充分準備ノ出来タル後ニ讓ル方得策ナラスヤト答ヘタルニ

學良ハ三民主義ニ服従ト言フモ表面ノミニテ實際ニ於テハ現在ト變化アルヘキニアラス只恐ル所ハ自分ノ周囲ニアル幕僚其ノ他吉黑兩省及大連等ニ頻リニ三民主義採用ヲ要

る

テアリ依テ本官ハ本件ハ事重大ナルヲ以テ政府ノ回訓ヲ待テ返事スヘキ旨述ヘテ帰レリ如何回答スヘキヤ至急御詮議ア

リタシ尚学良ハ本件ハ秘密ニ付セラレ度旨希望シ居ルニ付御含迄

176 昭和3年7月(17)日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

条約既得権履行に関する張学良の態度を確かめたうえ易幟後も支持すべき旨意見具申

奉天 7月17日前着 発  
本省

第四二三号(極秘)  
(一七五文書)  
往電第四二二号ニ閔シ

学良ト会談ノ砌東三省ニ於ケル日支經濟連絡ヲ論シ過般北京ニ於テ調印セラレタル鐵道借款ニモ談及シ将来之カ實現ニ努力セラレタキ旨語リタルニ学良ハ右借款鐵道ノ中交通部調印ノ分ハ差支無キモ張作霖ノ私印ノ分ハ外部ニ對シ發表スル訳ニ行カス実現困難ナル旨答ヘタルヲ以テ私印ヲ用ヒタル形式ヲ斥クルノ意味ナラハ更ニ何等カ別ノ形式ニテ實現セラル様希望スル旨ヲ語リ置キタリ要スルニ此ノ日ノ會見ニ於テ本官ハ青天白日旗ニ閔スル問題ヲ機會トシ非

177 昭和3年7月(17)日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

青天白日旗掲揚の形式的問題は張学良の裁量に任す方得策なる旨意見具申

北京 7月17日後着 発  
本省

第一〇五九号(極秘)  
在奉天林總領事発閣下宛電報第四二三号ニ閔シ

林總領事ノ意見ハ本使ニ於テモ全然同感ナリ青天白日旗ヲモ掲ケシメスシテ南方トノ妥協成立スルモノトセハ誠ニ結構ナルモ学良ノ同總領事ニ対スル説明ニテハ目下ノ場合右ハ困難ノ事ト思ハル日本トシテハ尚基礎ノ鞏固ナラサル学良ノ政府ニ対シテ成ルヘク好意的態度ヲ示シテ實利ノ獲得ニ努ムル事上策ニテ形式的ノ事ハ学良ノ裁量ニ任ス方得策ナリト存ス仮リニ奉天側ト南方トノ妥協ニ対シ我方ヨリ邪魔ヲ入レ出来上ラントスル妥協ヲ破壞スルカ如キ場合ニハ南方ノ悪感ヲ一層激甚ナラシムルハ勿論左無キタニ南軍ヲ滿州ニ入レサル我方ノ政策ヲ以テ支那ノ統一ヲ妨クルトノ非難ヲ洩ラシツツアル第三国人ノ悪感ヲ益々激成スル事トナルヘキハ必然ナリト思考ス我方ノ目的トスル処ハ主トシテ奉天發閣下宛前記電報末段ノ如キ方法ニテ漸次實利ヲ計ルニアリ國旗ノ如キ形式的問題ハ場合ニ依リ犠牲トスルモ致方無キ事ト存ス

右卑見御参考迄申進ス  
奉天へ転電セリ

ノ二点ニ閔シ考慮シ居リ尚三民主義服從ニ對シ日本政府ニ氣兼セルモノノ如シ自分ノ觀ル処ニテハ青天白日旗ノ掲揚

公式乍ラ商租問題及借款鐵道問題ニモ談及シタル次第ナルカ青天白日旗ハ今日ノ大勢ヲ觀ルニ我方ニ於テ好マストスルモ実力ヲ以テ阻止セサル限り之ヲ止メ得サルモノト思考セラルニ付テハ本日本官カ條約ノ履行ニ付特ニ念ヲ入レテ警告シ置キタル点モアリ旁此ノ際学良ニ於テ實際既存條約履行ニ閔シ如何ナル決心ヲ有スルヤヲ出來得ル丈ヶ詳細ニ確カメ同時ニ鐵道問題ニ付テモ相當諒解ヲ進メシメ之ニテ國旗変更後モ学良ヲ支持シ行クコト致シテハ如何ニヤ御参考迄卑見開陳ス

北京へ転電セリ

178 昭和3年7月17日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

国民政府の条件に対する張学良の意向に關し  
鄭謙の談話について

奉天 7月17日後着 発  
本省

第四二六号  
往電第四二一号ニ閔シ

十七日鄭謙カ河野ニ語ル処ニ依レハ張学良ハ十五日東北地方保安會員ノ多數ニ對シ今般国民政府ノ提出ニ係ル条件ノ大要ヲ説明セル處本件ハ三省重要問題ナレハ先ツ三省保安司令ニ於テ熟議ヲ遂クヘシトノコトニ一決シ直ニ萬福麟ニ召電ヲ發シタルカ萬ハ多分十七日着奉スヘク張作相ハ服喪中ナレハ代表ヲ列席セシメ會議ハ七八日中ニ開催セラルヘシ学良ハ国民政府条件ニ付テハ大体承認ノ意向ナルモ(一)熱河ヲ東三省ニ帰属セシムルコト  
(二)南軍ノ三省ニ侵入セサルコト

211

ハ最早左シタル問題ニアラサルモ三省委員ノ選定ニ付テハ内部ニ於テ相当議論アルコト思料ス現ニ楊宇霆ハ三省委員詮衡洩ヲ見越セルニヤ既ニ兵工廠督弁ヲ辞シ山海關引返期日モ未タ決定シ居ラス云々

北京へ転電セリ

179

昭和3年7月18日

田中外務大臣より  
在奉天林總領事宛（電報）

南方に対し迎合的態度を執らず保境安民を主として中立を守るよう張学良に警告方訓令

付記 七月十八日

「滿蒙時局措置案大綱」

本省 7月18日後発

\*  
第一二八号  
貴電第四二二号ニ閲シ

南方実勢力カ東三省ニ侵入スルコトハ東三省自体ノ為メニモ得策ナラス又日本トシテモ之レヲ歓迎セス殊ニ南方実力者ノ集散離合俄カニ逆賄シ得サル今日又從テ国民政府ノ政治的色彩モ如何ニ変化スルヤ計リ知ルヘカラサルカ如キ現

状ニ於テ東三省トシテハ南方ニ対シ迎合的態度ヲ執ラス保境安民ヲ主トシ中立ヲ守リ天下ノ形勢ヲ注視スルコソ最モ策ノ得タルモノナリトスル本大臣ノ見解ニツイテハ張学良ニ於テモ同意見ナリシカ如ク本大臣ニ於テモ彼ノ態度ニ満足シ居リタル次第ナリ然ルニ今回張同礼劉光來奉シ南方側ノ要求ヲ提出スルヤ一定条件ノ下ニ之レヲ講究スヘキ旨ヲ答ヘタル趣ナルカ右ハ彼ノ弁明セル如ク周囲ノ形勢ニ動カサレタル外（尤モ貴電第三六七号丁鑑修ノ話ニヨレハ三民主義ノ承認ニツキテハ奉天側ニ於テ大ニ異議有リトノコトニテ此点学良今回ノ話トハ多少相違アルカ如シ）三民主義ニ服従ト言フモ表面ノミニテ實際ニ於テハ現在ト變化アルヘキニアラストノ考慮ニ出テタルモノナルヘキモ本大臣ノ見ルトコロニ依レハ三民主義ノ採用青天白日旗ノ掲揚ノ如キ其レ自体ニ於テハ必スシモ差支無キカ如クナルモ既ニ形式ニ於テ之レヲ採用シ殊ニ政治分会ノ設立ヲ許容スルカ如キコトアリトスレハ南方実勢力ノ侵入ハ之ヲ防キ得ヘキニアラス如此ハ未タ混沌ノ域ヲ脱セサル支那ノ現状ニ於テ東三省治安ノ責任ヲ有スル保安総司令ノ執ルヘキ態度ニアラスト信ス学良ハ三民主義ノ採用ヲ拒絶スル時ハ自分ハ可ナ

リ苦キ立場ニ立ツコトトナリ或ハ下野ノ已ムナキニ至ル無キヲ保セスト称シ居ルモ前記丁鑑修ノ談話等ニヨレハ学良ノ言フカ如キ実情ナリヤ否ヤニツキテハ多少ノ疑無キニアラサルノミナラス仮令事実トスルモ保安総司令トシテ東三省ニ臨マントスル以上時ニ威令ヲ以テ之レヲ行フノ覺悟有ルヲ要ス若シ夫レ南軍東三省ニ進攻スルカ如キ若ハ東三省内部ニ於ケル不逞分子ニシテ武力ヲ行使セントスルカ如キモノ有ル場合ニハ日本ハ五月十八日覚書ノ主旨ニ基キ断然之ニ対抗シテ東三省ノ治安ヲ維持スルノ覺悟ヲ有スル次第ナレハ学良ヲシテ此關係ヲ充分ニ熟慮シ日本ノ此態度ヲ利用シテ決意スルニ於テハ仮令多少ノ困難有リトスルモ之レヲ排除スルコト難キニアラスト信ス

学良ニシテ東三省治安維持ニ対スル日本ノ固キ決意ト同人ニ対スル本大臣ノ好意トヲ充分諒解スルニ於テハ瀋州方面ニ於ケル撤兵ニシテモ今少シク何トカナルヘク又対南方態度ニシテモ当初ノ決心ヲ維持シ得ヘキ道理ナリト思考セラレ旁々此際我カ方ノ主旨ヲ更ニ充分徹底セシムルハ必要有ルヤニ感シ居ル次第ナリ

只當方ニ於テハ張學良等ハ覺書ノ交付、閔東軍ノ奉天集

中、爆破事件等ニヨリ日本ニ對シ恐怖心ヲ抱キ居ルカ故ニ若シ此ノ恐怖心ヲ増大セシムルニ於テハ彼等ヲ驅ツテ南方妥協セシムル危険アリト認メ從来学良ヲ安心セシメ日本ニ信頼セシムル様仕向クルコトニ努力シ来リタル次第ニシテ今日ニ於テモ我方ノ出様次第ニテハ彼等ト南方トノ妥協ヲ促進スル結果ヲ來サシメスマト懸念シ居ル次第ナルモ一方学良ニ対スル我方從来ノ態度カ余リニ好意的ナル為メ彼ヲシテ日本与シ易シトノ感ヲ懷カシメタル感有リ從テ此際先方ノ出方ニヨリテハ日本ノ強硬ナル反面ヲ示スコトモ必要ナリトノ見方モ無キニアラス貴電第四一二号ノ如キモ右ノ如キ見方ニ基ケルモノト思考サレ確カニ一面ノ理有リト信スルニ付貴官ニ於テ右両方面ノ観測ヲ更ニ現時ノ事態ニ照ラシ御熟考ノ上硬軟何レノ方法ニヨルヘキカハ一ニ貴官ノ裁量ニ任カスモ兎ニ角貴官ハ学良ニ面会シ本電前段ノ主旨ヲ含ミ支那ノ現状ニ於テハ東三省トシテ保境安民形勢觀望ノ最モ必要ナルコト及形ヲ執リテ其ノ実ヲ執ラサルコトハ不可能ナルコトヲ充分説明セラレ同時ニ從来ノ如キ保境安民及中立ノ方針ヲ持続スルニ於テハ日本トシテハ彼ノ地位ノ強固ヲ來タスヘキ方法等ニツキテハ充分ノ同情ヲ以テ

考慮スヘク又南軍ノ東三省進入若ハ東三省内ノ不逞分子ノ武力行使等ニツキテハ日本トシテ其ノ方針上決シテ看過スルコト無カルヘキニ付此点ハ安心シテ可ナル旨充分ノ説明セラレ度

北京ニ転電セリ

(付記)

\* 滿蒙時局措置案大綱

昭和三年七月十八日

滿蒙政策ノ行詰ヲ打開シ其躍進的發展ヲ期スルカ為ニハ實ニ今日ヲ以テ千載一遇ノ好機ト為ス而モ此好機ハ將ニ去ラムトシツツアルヲ以テ速ニ大綱ヲ出先当事者ニ指示シ活動ノ標拠ヲ与フルコト焦眉ノ急務ナリ多少ノ無理ハアリテモ此際ハ拙速ヲ旨トセサルヘカラズ

措置案大綱ハ概ネ左ノ如クナルヲ要ス

第一、速ニ有力者ヲ満州ニ派遣シ我滿蒙政策ノ大精神ヲ東

三省新政権ニ諒解セシム

第二、左記未決案件ヲ解決ス

(一) 鉄道

北京ニテ調印シタル四鉄道ハ直ニ其實行ニ着手ス

(二) 鉄道ノ敷設

白音太拉—林西—察哈爾地方ノ一地点

五常—哈爾賓—墨爾根—黑河

昂々溪—齊々哈爾—墨爾根

長春—海龍—輯安

(二) 土地商租問題  
此際解決ヲ期ス

要スレハ交換のニ漸進的方法ニ拠ル東三省内領事裁判權ノ撤廃ヲ約スルモ可ナリ

(三) 臨江領事館ノ設置ヲ承認セシム

第三、概ネ左記事項ニ就キ原則的協定ヲ遂ク

(一) 滿蒙ノ治安維持殊ニ赤化的勢力ノ防止ニ就テハ日満協力シテ之カ完全ヲ期ス之カ為国民政府ノ武力的統

一一ニ對シテハ五月十八日覺書ノ主旨ニヨリ我方力ヲ以テ之ヲ防止スヘキコトヲ明示ス

努ムルコトヲ約セシム差當リ日本ニ於テ希望シアルモノ左ノ如シ

(二) 鉄道ノ敷設

鉄道ノ急速ナル発達ヲ希望ス新設ニ当リテハ現ニ未解決ナル五常線、新邱線及其他日本希望線ノ實現ニ

モノ左ノ如シ

白音太拉—林西—察哈爾地方ノ一地点

五常—哈爾賓—墨爾根—黑河

昂々溪—齊々哈爾—墨爾根

長春—海龍—輯安

寧古塔—三姓

開魯—赤峯—張家口（又ハ熱河）

(三) 資源ノ開放

滿蒙ノ資源ヲ開放シ其開發ヲ促進スルコトヲ要求ス

(四) 財政ノ改革

東三省殊ニ奉天省財政ノ改革ヲ断行スルコトヲ勧ム

其ノ詳細ハ既定ノ通りトス

(五) 軍隊ヲ整理シ精兵主義ヲ実行セムコトヲ勧ム

(六) 朝鮮人ノ合法的發展ヲ妨害セサルコトヲ約ス

(七) 前記(一)(四)(五)項ニ對シ帝國ハ所要ノ人的及物質的援助ヲ与フルコトヲ約ス

昭和3年7月18日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛（電報）

南北妥協および対張学良態度に關する楊宇霆

の土肥原への談話について

180

奉天 7月18日前發  
本省 7月18日後着

談ノ要モ無シ總領事軍司令官ヲモ往訪スヘキナレトモ多忙ナルヲ以テ此ノ次帰奉ノ際ニ讓ル積リナリト述ヘタル趣ナ

リ尚右面会ノ際ニ偶然落合タル学良ニ対スル楊ノ態度ハ頗  
ル余所々々シク眼中學良ナキ概アリシトノ事ナルカ南北妥  
協問題カ楊ノ帰奉ト前後シテ再ヒ硬化シ来レル事情ハ特ニ  
注目ノ要アリト思惟セラル處土肥原カ同日学良ニ面会ノ  
際学良ハ楊派ノ圧迫ニ対シテハ相当ノ決心アルカ如キ口吻  
ヲ漏シタル由  
北京へ転電セリ

181 昭和3年7月18日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

張学良の南北統一後ににおける東三省委員制実  
施に関する河野への談話について

奉天 7月18日後発  
本省 7月18日後着

第四二九号（極秘）  
（一七五文書）  
往電第四二二号ニ関シ

十七日夜三省首脳會議開カレタル模様ナルヲ以テ十八日河  
野ヲ張学良ノ許ニ差遣ハシタル處學良ヨリ作夜張作相、萬  
福麟、楊宇霆鄭謙等ヲ集メ蔣介石代表ノ齋ラセル南北統一

北京へ転電セリ

182 昭和3年7月19日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

張作霖遭難後の楊宇霆の動向について

奉天 7月19日後発  
本省 7月19日後着

第四三六号

別ノ間柄ナル兵工廠顧問松井常四郎カ楊ニ向テ日支両国人  
間ニ不評判ナル旨ヲ語リタル際楊ハ言下ニ支那人ノ不評ハ  
問題ニ非ス日本人ニ対シテハ利害關係ニ依リ是亦如何トモ  
ナルヘシト語リタルヲ以テ松井ハ更ニ日本人ノ楊ニ対スル  
不評ハ利害關係ニ出テタルモノニ非ス寧ロ楊カ東三省ノ保  
境安民ヲ棄テテ閨内ニ出テントスルノ野心ヲ包藏スル為ナ  
リト説明セル處楊ハ平常ノ例ト異ナリロヲ緘シテ何事モ語  
ラサリシ由ナリ要スルニ諸般ノ状況ヨリ見ルニ楊ハ今猶閨  
内ニ対スル野心ヲ棄テス張學良ニ対シテモ機会タニアラハ  
如何ナル態度ニ出ルヤ頗ル疑ハシク現在ノ東三省ニ於テハ  
從来ノ關係上最有力ニシテ且危險ナル人物ト目セラレ居ル  
カ如シ右御参考迄

北京へ転電セリ

183 昭和3年7月20日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

国民政府との妥協による易幟の不可なる旨張  
学良に対する説得について

ク目下三、四方面軍ノ指揮ヲ楊ニ委ネタルモ其ノ幹部將校  
ハ全部自己ノ信賴アル者ニ限り採用シ居リ楊ヲシテ不軌ヲ  
企テルノ余地ナキ様充分ノ注意ヲ払ヒ居ルカ如ク  
楊ヲシテ跋扈セシメサル為ニハ充分ノ注意ヲ払ヒ居ルカ如  
於テモ從來ノ關係上今直ニ楊ヲ排斥スル事ヲ為シ得サルモ  
見ユルモ内心未タ野心ヲ断タルモノノ如ク數日前彼ト特

条件ニ付懇談ヲ重ネタルカ結局統一ニ関シテハ異存無キモ

(一)三民主義ノ実施  
(二)青天白日旗ノ掲揚  
(三)妥協後ニ於ケル南方野心家ノ侵入

等ノ諸点ヲ考究セハ南北提携ハ頗ル重要ナリ殊ニ日本トノ  
関係ニ顧ミ又慎重ニ考慮ヲ加ヘサルヘカラサルハ先日總領  
事ト面談ノ際言及セシ通ニシテ未タ明確ナル決定ヲ為サス  
ト述ヘタルニ対シ河野ハ三省ト日本ハ特殊關係ノ地位ニア  
レハ本件妥協ニ付テハ細心ノ注意ヲ払ハレタシト告ケタル  
处田中首相ヨリ回電アリシヤト尋ネタルヲ以テ河野ハ未タ  
回訓ニ接セサルカ政府ニ於テハ充分考慮中ナルヘシト答ヘ  
タル処（脱）並ニ先日總領事ニ対シ三省委員制実施ノ際  
（一）委員ハ三省ニ九名ヲ設置スル声明ヲ為セシモ或ハ十一人  
ニ増員スルヤモ知レス其ノ員数ニ関シテハ全ク未定ナリ  
(二)分課科目ハ民政、財政、建設、教育ノ四項ニ分チ其ノ上  
ニ東三省政治分会主席ヲ置ク  
筈ナルカ右各科目ヲ各自ニ設クルカ又ハ三省中唯一箇所ニ  
設置シテ執務スヘキハ全然決定シ居ラサルニ付前回ノ談話  
ハ右ノ通訂正アリタシ云々ト語レリ

奉天 7月20日前發  
本省 7月20日前着

## 第四三八号（極秘）

本十九日本官張學良ヲ往訪シ貴電第一二一八号御訓令ノ次第

(一七九文書)

ヲ詳細ニ説明ヲ加ヘテ申入レタル処学良ハ一応日本政府ノ厚意ヲ感謝セシ後自分トシテハ青天白日旗ノ掲揚ハ素ヨリ反対ナルモ本日正式ニ成立セシ東北保安会ノ要人等ハ此ノ際国民政府ト妥協シ三民主義ニ服従シテ青天白日旗ヲ掲揚シ戰禍ヲ避クヘシトノ意向ニ一致シ居リ今此ノ要人等ノ主張ヲ容レサレハ自分ハ非常ナル窮境ニ陥リ遂ニ下野スル外ナシト云ヘルニ付本官ハ学良ノ参考迄ニ貴訓令ニ從ヒ（一）東

三省トシテハ當分国民政府トノ妥協ヲ見合セ形勢ヲ観望スルコト（二）国民政府ノ主義ニ對シ外ニトリテ内ニトラストノ主義ハ断シテ不可能ナルコトヲ更ニ繰返シ必要ノ場合ニハ

当方ヨリ充分ノ援助ヲ与フヘキ旨説キ聞カセタルニ学良ハ部下ノ要望ト南方ノ脅威トニ接シ大勢是ニ逆フコトノ苦シサヲ繰々トシテ繰返シ此ノ際日本側ヨリ蔣介石ニ對シ南北妥協ハ東三省ノ為ニ採ラサル処ナリト中入吳レ間敷キヤト請ヘルニ依リ承諾シ難シト答ヘタル処然ラハ蔣ニ向ヒ日本

北京へ転電セリ

184 昭和3年7月20日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

奉天 7月20日後発

本省 7月20日後着

南北妥協問題に関する要人會議の内容に關し

河野が袁金鎧より得たる情報について

\* 第四四〇号  
(一八三文書)  
往電第四三八号ニ関シ

リ尚学良ハ昨夜蔣介石ニ宛テ日本政府ノ妥協反対ノ意向ヲ打電セシ由

185 昭和3年7月20日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

張學良の對南方妥協の目的は熱河の東北帰属  
との張景恵の談話について

奉天 7月20日後発

第四四二号

二十日張景恵ノ河野ニ語ル處ニ依レハ自分ハ昨日張學良ヨリ日本政府ノ主張ヲ詳細聴取セルカ東三省ノ南方ト妥協セムトスル学良唯一ノ目的ハ熱河ヲ三省ニ帰属セシメ外敵ノ侵入ヲ防キ内部ノ保境安民ニ努メムトスルニアルカ如シ國民政府ニシテ若シ強テ熱河ヲ三省ヨリ切離サムトセハ三省ハ或ハ一戦ヲ辞セサルヘン自分ノ觀察ニ依レハ今ヤ三省官民ノ最モ恐ルル處ハ南方ト再戦ノ結果財政ノ破壊ヲ招クニアリ故ニ已ムヲ得サルニ於テハ三民主義ニ服従シ青天白日旗ヲ掲ケサルヘカラサルモ日本ノ好意的忠告モアレハ学良

ク從テ省民ノ負担スヘキ軍費ハ減少サレ秩序ハ維持サレ易クタク自立自守ナリ妥協成立セハ外省ヨリ侵略ヲ受クルコトナク殊ノ關係ヲ有スル日本政府ヨリ好意的勸告アリタルニ付テハ本件ハ今後尚充分ノ熟議ヲ凝スコトニ決シ散会セル趣ナ



モノナルカ故ニ日本カ之ヲ選ハサルハ勿論ナリ而カモ貴下カ今言フ様ニ妥協ヲ行ハハ妥協直後ニ於テ一時小康ヲ得ンモ爾後南方ノ容喙使嗾ヲ受ケ内部ヲ攪乱セラレ遂ニ其地位ヲ失フヘキヲ憂フ從テ當分保境安民主義ヲ持シ南方ノ統一完成ヲ待チテ交渉スルモ遲シトセス

「学良」自分ノ力ハ乃父ノ如ク直情徑行的ニ對南協定ヲ破棄シ且内部ヲ抑圧スルヲ得ス此ノ件ニ關シテ力添ヲ乞フ「村岡」三省内部ニ對スル抑制運動ハ援助スヘキモ南方ニ對スル警告等ハ畢竟徒勞ニ終ラン蓋シ蔣介石ノ立場ハ三省ヲ青白旗下ニ抱擁スルヲ要スレハナリ

「学良」予ハ支那全般ノ統一ヲ妨害スルモノナリトノ惡名ヲ着セラルルヲ虞ル

「村岡」貴下ハ支那カ既ニ統一セラレアルモノト觀ラルルヤ貴下ハ蔣、閻ト提携シ討馮ヲ策シアルニアラスヤ支那ノ統一ハ前途遼遠ニシテ三省ノ保境安民カ毫モ統一ノ破壊ヲ意セサルヘシ元来敵父作霖氏ハ十數年間日本ト提携ヲ維持シ來リ今日東三省繁榮ヲ築キ上ヶタリ然ルニ貴下ハ父ノ葬喪ヲ終ラサル今日敵ニ屈服シ三省ヲ壞セントス苟クモ三省保安総司令トシテ何ノ面目カアル宜シク断乎

ハ閣下ハ既ニ諒解アルモノトテ言明ヲ避ケタリ学良ノ立場上当分極秘ニ取扱ハレ度

188 昭和3年7月(21)日 在中國芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

日本の易幟阻止問題などに対する蔣介石の態度に関する張群の談話について

北 京 発  
本 省 7月21日後着

第一〇七〇号

二十一日張群ノ有野ニ對スル談話中参考トナル点左ノ通  
一、東三省問題ニ關スル蔣介石ト奉天代表トノ協議ハ引続キ進行中ニテ奉天側ハ三民主義遵奉青天白日旗掲揚等ニハ主義上異存ナキ旨申出テ居ルモ張作霖死後早々ノ際ナレハ等ノ理由ニテ不得要領ノ返事ヲ為シ直ニ実行スヘキ意思ヲ表明セス從テ目下ノ處具体的細目ノ打合ヲ為ス程度ニ至ラス殊ニ代表等ハ全權ヲ有セス单ニ仲繼キヲ為ス程度ナル為談判モ將明カス此ノ分ニテハ蔣介石ノ出發(未定ナルモ全体会議前諸種ノ準備モアルニ付數日中ニ

タル処置ヲ講スヘキ秋ニアラスヤ(此時学良涕泣歎欷シテ止マサルコト半時)

「学良」目下内部ニ對シ予ノ信任ノ厚薄ヲ問フ可キ別個ノ問題(官銀号不正事件)アリ此ノ問題解決ノ結果ヲ俟チ自分ニ對シ味方多キヲ確ムレハ妥協問題モ或ハ強圧的ニ解決スルニ若カサルモ万一千反対ヲ表スル者多ケレハ妥協問題ヲ延ハシ葬式終ルヲ待チ一旦下野ヲ標榜シ更ニ衆望ヲ負ヒテ後退スルニ望ミ「クウデータ」ヲ行ヒ之ヲ一蹴スヘシ此ノ件予メ御諒察ヲ乞フト

尚学良ハ本会見ノ際折ニ触レ自己ノ勢力ヲ殺カントスル黒幕ノアルコトヲ諷シ且ツ自己身辺ノ危険ナルコトヲ述ヘ傍ラ日本軍ノ駐奉ヲ希望シ其掩護下テ事ヲ舉ケン事ヲ希望シアリ

以上ノ如キ経過ニシテ會見後学良ハ多少意ヲ決スル處アリシカ如ク南方トノ妥協ハ渺クモ葬式迄之ヲ引延ハス意向ナルモノノ如シ未タ直ニ青天白日旗ヲ掲クルコト無シト觀察(別電張作相談参照)スルモ尚引続キ監視ヲ要スルモノナルヲ認ム

前末項黒幕云々ニ關シテハ突キ止メタル答ヲ求メタルモ彼

出発南下スヘシ迄ニ話ヲ纏ムル事覚束無カルヘシ  
一、蔣介石ハ右東三省問題ニ付特ニ日本側ノ關係ヲ顧慮シ努メテ寛大ナル方法ニ依リ解決ヲ計ラントシ居ル處最近日本側ニ於テ掲旗問題等ニ反対シ或ハ東三省分離ヲ企図シ居レリ等ノ説ヲ耳ニシ多少懸念シ居レリ(奉天代表カ斯ノ如ク吹聴シ居ルカ如キ口吻ヲ洩ラセリ)尤モ日本政府カ支那ノ統一ヲ希望シ居ル事ハ累次聲明セル處ナルヲ以テ今回ノ如キ和平手段ニ依ル解決ニ對シ日本政府トシテ反対スル筈無ク多分一部日本人顧問等ノ策動ニ過キサルヘシトテ蔣ハ務メテ風聞ヲ否定スル態度ヲ取り居レリ  
一、日支通商條約問題ニ關シ蔣介石ハ嘗テ王正廷ニ對シ日本トハ特別ノ交渉ヲ為ス必要アル旨ヲ注意シタル事アル处王カ他國ニ對スルト同様ノ通告ヲ日本ニ發シタルハ意外トスル處ナリ恐ラク国民政府全体ノ同意ヲ得タルモノニ非サルヘシ元來王ノ遣リロハ不満ノ点多ク自分等ハ之迄忠告スル勇氣サヘ無カリシ程ナリ  
在支各總領事、南京へ転電セリ

189  
昭和三年七月二十一日

田中外務大臣より  
在中国芳沢公使、在奉天林總領事、  
在上海矢田總領事、在英國佐分利臨  
時代理大使、在米國沢田臨時代理大  
使宛（電報）

**南北妥協差し止め方林總領事より張學良へ申  
し入れ報道に対する釈明振りについて**

付記 七月二十一日 有田亞細亜局長起草

東三省の支那本部よりの政治的・精神的分離問題について

本省 7月21日後発

合第二七六号

東三省ノ対南方妥協差止方林總領事ヨリ張學良ニ申入レタ  
リトノ報道ニ対シ外間ニ釈明スル必要アル場合ニハ同總領  
事ハ張學良ヨリ意見ヲ求メラレタルニ対シ意見ヲ述ヘタル  
モノナルカ其ノ主旨ハ日本ハ東三省ノ治安維持ヲ重視スル  
関係上同地方ノ政治其ノ他カ急激ナル変化ヲ受クルコトハ  
成ルヘク之ヲ避ケンメ度意向ニシテ右ハ決シテ今日ニ始マ  
リタル考ニアラス今ヤ北伐軍ハ北京ニ入りタルモ各種ノ情  
報ニ依レハ政情ハ必シモ安定シタリト言フヲ得サルカ如

タリト思考スト言フニ在リタリトノ説明シ置カレ度シ

（付記）

昭和三年七月二十一日

有田亞細亜局長起草

一、東三省カ政治的精神的ニ支那本部ヨリ分離セントスル  
場合日本カ其傾向ヲ助成スルコトハ差支無シトスルモ張  
學良初メ東三省一般カ支那本部ヨリ分離スルコトヲ好マ  
ス寧ロ之レト妥協シテ合一セムコトヲ欲スル場合日本カ  
強圧ヲ加エテモ之レカ分離ヲ促進セシムヘキヤ否ヤ

二、一部ノ論者ハ若シ東三省カ支那本部ニ統一セラレ同一

ノ政治組織ノ下ニ立ツニ至レハ日本ノ東三省ニ対スル各  
般ノ施設ハ実行極メテ容易ナラサルニ至ル可キカ故ニ是  
非トモ東三省ハ支那本部ヨリ分離スル様措置セサルヘカ  
ラス東三省カ青天白日旗ヲ掲ケ三民主義ヲ奉スルコトハ  
差当リ実害少シトスルモ一度之レヲ許サンカ遠カラスシ  
テ全然支那本部ニ統一セラルヘキコト疑無キヲ以テ其第  
一步ニ於テ之ヲ阻止スルノ方策ヲ講セサルヘカラス故  
ニ今日若シ日本ノ希望ニ反シ東三省カ青天白日旗ヲ掲ケ  
三民主義ヲ奉セムトセハ日本ハ一大決心ヲ以テ之レニ臨  
ミ強力ヲ以テスルモ之レヲ阻止スルヲ要ス日本ノ行キ詰  
リヲ打開スル為メヨリスレハ此機ハ之レヲ逸スヘカラス  
国運ヲ賭スルモ亦辞スヘキニアラスト論シツツ有ルカ如  
シ

三、東三省ニ対スル日本ノ要望ハ二有リ一ハ同地方治安ノ  
維持ニシテ他ノ一ハ其ノ經濟的開発之レナリ  
上記二個ノ要望ヲ達スル上ニ於テ東三省ノ分離ハ絶対ニ  
必要ナル条件ナリヤ  
第一ノ問題タル東三省治安ノ維持ハ我国防上ヨリモ將又  
赤化防止ノ点ヨリモ絶対ニ必要ナルトコロニシテ日本ト

ク又国民政府ノ政治的傾向ノ如キモ果シテ如何ニ変化スル  
ヤ予測シ易カラス現ニ同政府ハ國際条約ノ神聖ヲ無視シテ  
日支通商條約ヲ破棄シタルカ右ノ如キ傾向ハ此上如何ニ發  
展スルヤ甚タ懸念ニ堪ヘサルモノアリ從テ如此混沌タル際  
東三省トシテハ慌シク南方ト妥協合一スルノ必要無キノミ  
ナラス若シ此際輕率ナル態度ヲ執レハ東三省治安スラモ影  
響スルトコロ無キヲ保セサルカ故ニ暫ク保健安民以テ静カ  
ニ形勢ヲ觀察スルコト東三省保安總司令タル張學良ノ責務  
タリト思考スト言フニ在リタリトノ説明シ置カレ度シ

四、如此觀シ來レハ東三省カ分離スルコトハ日本トシテ望マシク又其ノ勢ヲ助成スルコトハ得策ナルモ非常ナル犠牲ヲ払ヒテ迄モ無理ニ其ノ方面ニ猪突スル必要ハ絶対ニ之無キナリ

五、日本カ東三省ニ特殊利益ヲ有ストノ点ニツキテハ從来

各国ニ異論有リ今日迄各國トシテハ之レヲ承認シタルコト無ク現ニ最近英国外相サヘ下院労働党議員ノ質問ニ答へ英國ハ日本カ満州ニ於テ何等特殊ノ利益ヲ有セルモノト認メスト述へ居ル程ニテ殊ニ米国辺リニテハ五月十八日ノ覚書ノ結果ニツキテサヘ非常ナル注意ヲ以テ日本ヲ監視シ居レリ右ノ如キ状況ナルヲ以テ今若シ日本カ東三省ヲシテ支那本部ヨリ分離セシメントシテ強力ヲ加フルカ如キコトアラハ支那ハ勿論諸外国ヨリ日本数次ノ声明乃至九ヶ国条約ニ違反スルモノトシテ喧々轟々タル非難ヲ蒙ルニ至ルハ必然ニシテ其結果ハ極メテ重大ナルモノアルヘク此事態ハ実ニ日本ノ危機ヲ孕ムモノト云フヲ憚ラス

六、東三省ノ分離カ右ノ如キ危機ヲ捲キ起シ國運ヲ賭シテ迄モ実現セサルヘカラサルモノナルカ吾人ハ決シテ然カ

信セサルナリ日本ノ立場ヨリスレハ東三省治安ノ維持、赤化防止ト云フ点ノミヲ固執スレハ足リ此点ヨリナレハ場合ニヨリテハ一大決心ヲ為スモ已ムヲ得サルヘク又此点ヨリナレハ諸外国ニ対シテモ充分説明納得セシメ得ルナリ

七、大隈内閣ノ際二十一ヶ条ノ要求ヲ支那ニ提出シタルカ

日本ハ歐米各國カ大戰ニ從事シ居ル際故此時期ヲ逸シテハ支那問題解決ノ機會ナシトシテ之レヲ提出シ最後通牒迄発シテ一応目的ヲ達シタルナリ然レトモ此二十一ヶ条ノ要求ハ後年ニ種々累々残シタリ日英同盟ノ破毀ニ至

レル原因モコニ在リ華府會議ニ於テ支那問題カ論セラレ日本ノミカ姐上ニ上リシモ之レカ為ナリ然ルニモ拘ラス日支交渉ニヨリテ得タル権利ノ大部分ハ有耶無耶中ニ消滅シ終レリ之レ「此機ヲ逸シテハ」ト云フ考ヨリ来る無理ノ結果ナリ

今ヤ東三省ノ分離問題ニツキテモ此二十一ヶ条當時ニ於ケルト同様ナル「此機ヲ失シテハ問題解決ノ期無シ」ト

スル考ヘカ動キ居リ動トモスレハ無理ヲセムトスル形勢有リ之レ極メテ危險ナル事ニシテ二十一ヶ条要求當時ノ

状勢ト其後ノ結果トハ今日ニ於テ深ク鑑ミルヘキナリ要之東三省ノ支那本部ヨリノ分離問題ハ日本ノ希望トシテ機会有ル毎ニ其ノ助成ニ力ムヘキモ東三省ノ大勢ニ反シテ迄モ之レヲ強行セシメムトスルカ如キハ之レヲ避ケ其代リ日本トシテハ同地方ノ治安維持問題ニツキテハ支那人外国人ノ意向如何ニ拘ラス必要ノ場合ハ自衛ノ見地ヨリ適當ノ措置ヲ取リ以テ同地方ヲ内外人安住ノ地タラシムル覺悟ヲ以テ進ムヘシ分離セシメサレハ利權ノ獲得ニハ時トシテ不便ノコトアラムモ之レカ為メニ非常ナル國際紛乱ヲ賭シテ迄モ分離ヲ為サシメムトスルカ如キハ断シテ不可ナリ

190

昭和3年7月21日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛（電報）

張学良より閔東州内の国民党員による東三省  
内部の擾乱工作取締方要望について

奉天 7月21日後発

本省 7月22日前着

191 昭和3年7月23日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛（電報）

蔣介石より張学良に対し対日抵抗、易幟の即時実施を要求について

奉天 7月23日後発

本省 7月23日後着

### 三 東三省の政情と易幟問題

二十二日張學良ハ王秘書ヲ本官ノ許ニ遣ハシ蔣介石ヨリ電報三、四通ヲ寄セ協並ニ青天白日旗ノ即刻掲揚ヲ迫リタリタルニ付テハ貴總領事ニ於テモ更ニ考量ヲ加ヘラレ度ト申出タルニ付学良ノ意向又モヤ動搖シツツアルニ顧ミ二十日河野ヲ遣ハシ国民政府ハ日支ノ関係ヲ無視シテ條約ヲ破棄シ在支帝國臣民ノ権利ヲ蹂躪セムトス東三省カ此ノ横暴ナル政府ト妥協セムトス東三省ニ於ケル帝國臣民ノ権利ヲ喪失セシムルニ異ナラサルヲ以テ帝國政府ハ到底之ヲ看過シ得サル旨ヲ嚴重ニ申入レシメタル処学良ハ前記電報ヲ示シ蔣ノ意向ハ（日本政府カ支那ノ内政ニ干渉シ三省ヲ日本ノ領土ノ如ク考ヘ居ルハ殘念ナリ今日日本政府ニ乗セラルニ於テハ三省ハ永遠日本ノ驅束ヨリ脱シ得サルヘシ）日本ヨリ如何ナル警告ニ接ストモ之ニ耳ヲ藉サス直ニ青天白日旗ヲ掲ケ三民主義承認ノ通電ヲ発スヘシ（三）日本政府カ三省以外ノ干涉ヲ加フルニ於テハ支那全国民ノ力ヲ以テ之ニ抵抗スヘシ三省ノ存亡ハ支那全土ノ存亡ニ関スト謂フニアリテ自分ハ其ノ処決ニ当惑シ居ルモ日本政府ノ好意的忠告ニ顧ミ今尚慎重ニ考慮シツツアル次第ナリト述ヘタリ不取敢

193 昭和3年7月25日 在奉天林総領事より  
田中外務大臣宛（電報）  
保安委員会において南方との妥協は一時打切りと決定した旨の張學良よりの通知について  
奉天 発  
本省 7月25日後着

云々

\*  
第四五七号  
二十五日張學良ノ代理トシテ王家楨來訪シ二十三日二十四日兩日ニ亘リテ保安委員会ヲ開キ南方トノ妥協ハ愈一時打切ト決定シタルヲ以テ右様御承知アリタク但シ之ハ日本ノ勸告ニ依ラス自發的ノ行為トシテ決定セルモノニシテ今日ノ通知モ公式ニ總領事ニ対スルモノニアラス友人トシテ私的ニ通知スルモノナリト申越アリタリ

報三、四通ヲ寄セ協並ニ青天白日旗ノ即刻掲揚ヲ迫リタリタルニ付テハ貴總領事ニ於テモ更ニ考量ヲ加ヘラレ度ト申出タルニ付学良ノ意向又モヤ動搖シツツアルニ顧ミ二十日河野ヲ遣ハシ国民政府ハ日支ノ関係ヲ無視シテ條約ヲ破棄シ在支帝國臣民ノ権利ヲ蹂躪セムトス東三省カ此ノ横暴ナル政府ト妥協セムトス東三省ニ於ケル帝國臣民ノ権利ヲ喪失セシムルニ異ナラサルヲ以テ帝國政府ハ到底之ヲ看過シ得サル旨ヲ嚴重ニ申入レシメタル処学良ハ前記電報ヲ示シ蔣ノ意向ハ（日本政府カ支那ノ内政ニ干渉シ三省ヲ日本ノ領土ノ如ク考ヘ居ルハ殘念ナリ今日日本政府ニ乗セラルニ於テハ三省ハ永遠日本ノ驅束ヨリ脱シ得サルヘシ）日本ヨリ如何ナル警告ニ接ストモ之ニ耳ヲ藉サス直ニ青天白日旗ヲ掲ケ三民主義承認ノ通電ヲ発スヘシ（三）日本政府カ三省以外ノ干涉ヲ加フルニ於テハ支那全国民ノ力ヲ以テ之ニ抵抗スヘシ三省ノ存亡ハ支那全土ノ存亡ニ関スト謂フニアリテ自分ハ其ノ処決ニ当惑シ居ルモ日本政府ノ好意的忠告ニ顧ミ今尚慎重ニ考慮シツツアル次第ナリト述ヘタリ不取敢

192 昭和3年7月24日 在奉天林総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

東北保安委員会における張學良の態度に関する張景惠の内報について

奉天 発  
本省 7月24日後着

\*  
第四五六号

二十四日張景惠ノ河野ニ語レル処ニ依レハ張學良ハ二十三日大帥府ニテ東北保安委員会ヲ開キ（張作相欠席）奉黒両省長改選委任（奉天ハ翟文選黒龍江ハ常蔭槐吉林ハ從来通張作相兼任）ノ件ヲ正式決議ン次ニ学良ヨリ南北妥協青天白日旗掲揚並ニ日本政府ノ勸告ニ付縷述シタル後目下三省トシテハ国旗掲換ノ不利ナルヲ力説シ委員等ノ諒解ヲ求メタル處袁金鎧及自分等ニ於テ之ヲ支持シ結局當分形勢觀望スルコトニ略話纏マリ約二時間ニテ散会セリ自分ノ觀ル所ニテハ張學良ハ今後努メテ總領事ノ意向ヲ聞キ保安委員会ト連絡ヲ計ラムトスル傾向アルハ誠ニ欣フヘキ現象ナリ最近湯玉麟ハ単独通電ヲ発シ南方ト妥協シ既ニ一部ニテハ青

194 昭和3年7月26日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛（電報）  
对中国政策修正に関する意見具申  
第一〇九八号  
本省 7月26日前着

北京 発

第三国人ニ右ノ如キ感想ヲ与フルハ強チ無理ナラサルカニ

思ハル過日天羽書記官貴地出張ノ際我對滿政策ニ関スル卑見ノ一端ヲ伝申セシメ置キタル通現在国民政府ハ固ヨリ感服シ難キ点アルノミナラス其ノ将来モ果シテ永続スルモノナルヤ断言シ難キモノナルモ仮令現在ノ政府ニシテ倒ルルトスルモ次ニ現ハルヘキ政府モ亦現在国民ノ知識道徳ノ程度ヲ以テシテハ其ノ大同小異ナルヘキハ想像ニ難カラス日遇スル方得策ニシテ即チ我對支政策トシテハ貿易ノ最重要ナル関係ニ鑑ミ原則ニ於テ飽迄日支親善ヲ標榜セサルヘカラス尤モ特殊ノ問題ニ付テハ之カ除外例トシテ国民政府ナリ現国民ナリニ対シ其ノ不快ノ感情ヲ起サンムルコト等ヲ一々顧慮スルノ遑ナキコトアルヘキハ勿論ナリ乍去除外例ハ勿論除外例ニシテ成ルヘク之ヲ狭キ範囲ニ局限スルコトノ必要ナルハ申迄モナク然ラサレハ何レカ原則其ノ何レカ除外例ナルヤヲ知ルニ苦シムニ至ルヘキヲ怖ル

濟南事件ノ處理ニ付テハ本使ニ於テモ其ノ将来ニ多大ノ懸念ヲ有スル次第ニシテ勿論政府ニ於テモ尚更御苦心相成り居ルルコトト拝察スル次第ナルモ先ツ率直ニ右事件ノ處理ニ関スル御方針ニ対シ卑見ヲ申上クレハ右御方針ハ予テ往在支各総領事、南京へ転電セリ

ハ勿論ナルト同時ニ同政府以外ノ國民モ亦次第二排日的傾向ヲ加フル趨勢ニアルハ争フヘカラサル事実ニシテ頗ル重要ナル局面ニ直面スルモノト見受ケラルニ付此ノ際篤ト御考慮ヲ煩ハシ度

朝陽以北ヲ讓ル意志ナキ旨通シ置ケリ

(一) 漢河方面ノ軍隊ハ山東軍ノ始末付カサル為目下撤退ヲ中止シ居レルカ右始末付キ次第北戴河以上ニ撤退スヘシ山東軍ノ後始末ハ張宗昌ニ於テ南軍編入ヲ肯セス閔外ニ移動セシムル訳ニモ行カス去リトテ父親以来ノ関係モアリテ武力解決ヲ行フヲ欲セス目下始末ニ困リ居レリ

(二) 日本内地ヨリノ通信ニ自分カ日本人ニ借款ヲ依頼セル如キ報道アルモ自分ハ何人ニモ借款ヲ頼セルコトナク右ノ如キ通信ハ南方ヘ対シテモ亦東三省民ニ対シテモ無用ノ疑惑ヲ抱カシメ誠ニ迷惑ヲ感ス事實ハ唯某日本人力借款ノ意思サヘアラハ尽力スヘキ旨語レルヲ以テ当ラス触ハラス答ヲ為シ置キタルノミ

\* 第四六七号

七月二十八日張學良ヲ往訪学良談話ノ要領左ノ通り

(一) 南方トノ妥協打切りトナリタル為蔣介石派遣代表モ去リ當方ヨリ北京ニ派遣セル代表モ邢士廉カ南京ニ赴ケル外

全部帰奉セリ熱河ニ対シテハ蔣ニ何等積極的行動ノ意志ナキカ如クナルモ方振武及葉祺等ハ既ニ軍事行動ヲ起セ

ルカ如ク油断ナリ難シ蔣ニ対シテハ如何ナルコトアルモ

電第八三二号及第九一九号並ニ其ノ他ノ方法ニ依リ申上ケ置キタル卑見トハ非常距離アリテ甚タ乍失礼御決定ノ御方針ニテハ尋常ノ手段ニ於テ成功ヲ期スルコト到底不可能ト思考ス  
若シ帝國政府ニ於テ例ヘハ滿州問題ニ付着々其ノ地歩ヲ堅メムトセラル御意向ナル場合ニハ他方面ニ於ケル活動ハ成ルヘク手荒キコトヲ避ケラレ態度ヲ緩和スルコト必要ニテ若シ然ラスシテ孰レノ方面又ハ孰レノ問題ニ付テモ現在ノ如キ遭口ヲ以テ進ム場合ニハ殆ト原則ト除外例トノ區別無キニ至ラサルヤヲ惧ル例ヘハ国民政府ノ主張ノ如キモノノ蔓延ハ現下ノ支那ニ於ケル政情ニ於テハ之ヲ阻止スルコト不可能ト申スモ差支ナシ從テ例ヘハ對滿政策ニ付テモ青天白日旗ヲ掲揚スル位ノ程度ニテ国民政府ト奉天派トノ妥協成立スルモノトセハ我方に取リテハヨリ以上ノ不利益ナル場合ヲ避ケ得ルコトトナルヘキヤニ思考ス我對滿政策トシテハ形式ノ点ニ於テ急クヨリモ商租權獲得等ノ如キ土地ニ対スル我方ノ權利ヲ拡張シ漸次實際上ノ我方地歩ヲ堅メ行ク方得策ナリト存ス最近ニ於ケル我對支關係ノ發展ニ顧ミ国民政府當局ノ我方ニ対スル反感ノ益々昂マリツツアル

東三省問題に関する国民政府其の他の態度に

ついて

南京  
本省 7月30日前着

第三二二一号

東三省問題ニ関スル国民政府方面ノ態度ハ目下ノ處頗ル冷靜ニシテ本問題ハ早晚帰着ス可キ処ニ帰着スヘク即チ南北妥協ニ関スル確実ナル成算ヲ有スルヲ以テ田中内閣ノ干渉モ結局何等ノ効無キモノト樂觀シ本問題ニ関スル日本トノ折衝ハ内閣ノ更迭ト共ニ円満ナル解決ヲ見ルモノト為スモノ多ク本官ノ会見セル各要人モ「日支両国間ハ結局相提携セサルヘカラス今更干戈ヲ交ヘルカ如キアリ得ヘカラサル事ニシテ将来両国間諸問題ハ各個別々ニ考慮シ累々国交ニ及ホササルヲ得策ナリ」ト主張セルモノ多シ只党部及司令部方面ニ於テハ相當激越ナル主張ヲ為スモノアルカ如シ

当地各新聞亦單ニ挑発的通信ヲ掲載スルノミニシテ論評ヲ加ヘタルモノハ別電第三二二号總司令部機関紙警報外一紙アルノミ当館來訪ノ支那新聞記者等モ大体ニ於テ日本ノ満州ニ於ケル投資其ノ他特殊地位ハ之ヲ認メサルヲ得ス日本亦必スシモ満州ニ於テ領土的野心ヲ有スルモノトハ考ヘサルモ南方ニ同情ヲ有セサル田中内閣カ国民政府ノ統一ヲ妨害スルモノナリト考ヘ居ルモノノ如シ

シ  
在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛（電報）  
南北妥協文渉再開に際し我が方の執るべき態度につき請訓

奉天 7月31日前発

本省 7月31日後着

\*第四七四号

過般我勸告ニ依リ打切りトナリタル南北妥協ノ空氣ハ去ル四、五月ノ頃奉天軍保定方面駐屯中ニ早クモ醞釀シ楊宇霆等ノ中原活躍ノ野望ニ利用セラレ且ハ張學良ヲ首ニ擁スル青年輩ノ新抱負トシ合シ京津方面撤退当地帰還後燎原ノ勢ヲ以テ燃上リ遂ニハ一時張作相、袁金鑑等ノ守旧派ヲモ大

197 昭和3年7月31日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛（電報）

南北妥協文渉再開に際し我が方の執るべき態度につき請訓

奉天 7月31日前発

本省 7月31日後着

\*第四七四号

過般我勸告ニ依リ打切りトナリタル南北妥協ノ空氣ハ去ル四、五月ノ頃奉天軍保定方面駐屯中ニ早クモ醞釀シ楊宇霆等ノ中原活躍ノ野望ニ利用セラレ且ハ張學良ヲ首ニ擁スル青年輩ノ新抱負トシ合シ京津方面撤退当地帰還後燎原ノ勢ヲ以テ燃上リ遂ニハ一時張作相、袁金鑑等ノ守旧派ヲモ大

勢順応ノ已ム無キニ至ラシメタル次第ナルカ偶々我勸告ニ依リ守旧派ハカラ得テ再ヒ保境安民ノ声ヲ挙ヶ楊等一派ハ兎ニ角モ日本ノ大勢ニ順応シ青年派ハ一時憤懣ヲ忍ヒツツ機ヲ窺ハムトシツツアルモノト観測セラル從テ今後南方ノ形勢推移如何ニ依リテハ再ヒ妥協交渉ヲ再燃スル事アルヘキハ極メテ明白ニシテ近ク南京ニ開カルヘキ第五次執監会議ノ結果如何ニ依リテハ案外速ニ妥協交渉ヲ再開スル事無

キヲ保セス其ノ際青年等急進派ハ前例ニ鑑ミ或ハ我方ニ商議スル事無ク南方トノ妥協ヲ実現セムト努力スルコトアリ得ヘク張學良カマサカ我方ヲ出シ抜クカ如キ態度ヲ執ル事無カルヘシトハ想像スルモ聰明ナルモ鞏固ナル意志ヲ欠ク無キヤ疑アル学良ノコトナルヲ以テ決シテ油断スヘキニ非ス我方トシテハ今後形勢ノ推移ニ充分ノ注意ヲ払フト同時ニ南方ニ於ケル支那統一機運ノ好転シ且ハ国民党政府ノ態度変更例へハ條約改訂交渉開始等ノ場合ニモ尚飽迄南北ノ妥協ヲ阻止スヘキヤ或ハ又夫等ノ場合ニハ南方ノ形勢及國民政府ノ態度一変等ノ理由ノ下ニ妥協ヲ容認スヘキヤ今ヨリ充分ニ之ヲ考究シ置ク必要アルヤニ思考セラルヲ以テ右御詮議ノ上成ルヘク早ク之等ノ場合ニ処スル措置御垂示

置相成度シ

198 昭和3年7月31日 在奉天林總領事宛  
吉田外務次官より

## 田中外相より林権助特派大使に付与の張學良

への伝達事項について

(脚外記入)  
極秘半公信

拝啓陳者今般林大使赴奉ノ目的ハ故作霖ノ葬儀参列乍ラ田中大臣ノ意図ヲ学良ニ伝達スルニ有之候處同大使出發前別添第一号ノ通リ大臣ヨリ親シク同大使ニ内話ノ次第有リ張學良ニ申入ノ際ハ別添第二号ノ主旨ニ依ルコト致度大臣ノ御意見ニ有之候ニ付テハ別添第一号及第二号林大使ニ御示シノ上充分御打合相成度將又林大使学良会談後ハ何レ新聞記者等ヨリ種々ノ質問モ出ツヘクト存シ候處其際當方ト学良側トニ答弁ノ不一致有リテハ面白カラサルニ付新聞記者其他外間ニ対シテハ林大使ハ今回ノ葬儀参列ヲ機トシテ別添第二号末項（即チ貴官ノミヲ日本側ノ代表者ト認ムル云々ノ件）總理ノ伝言ヲ学良ニ伝ヘタルモノナリト説明スルコトニ学良トモ御打合セ相成度候尚又林大使赴奉ヲ機ト

本官ハ必要ノ場合在支公使宛貴電（六八文書編注）第一号ノ御訓令ニ基キ説明シ居ルモ近來各種問題ニ關シ本邦通信中面白カラサルモノ頗ル多ク特ニ本問題ニ關スル通信ハ支那国民ニ對シ無用ノ惡印象ヲ与ヘタルモノ鮮カラスト思料ス

前電通り転電セリ  
北京ヨリ奉天ヘ、上海ヨリ廣東ヘ御転電ヲ請フ  
~~~~~  
197 昭和3年7月31日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛（電報）  
南北妥協文渉再開に際し我が方の執るべき態度につき請訓

シ此際貴官ニ於テモ同大使ニ対シ時局ニ閃スル忌憚ナキ意見ヲ吐露セラレ政策上ノ貴見ニシテ帝国政府ニ同大使ヲシテ充分徹底セシメムト欲セラルモノアラハ包藏ナク同大使ニ申入レラルコトモ此際機宜ノ一方法カト思考セラレ候条此段思付ノ儘為念申進候 敬具

(欄外記入) 亞細亞局第一課ニ於テ淨書ノ上田中囑託ヲ「ク

「リエ」トシテ昭和三年七月三十一日東京発奉  
天ニ持參セシメタリ

(別添第一号) (極秘)

外務大臣ノ談話要領

一、満州ハ日本ノ外廓ナリ此ノ地ノ治亂興廢ハ日本朝鮮ニ影響シ重大ナル関係アリ乍去我々ハ満州ヲ保護國トストカ領土的ニ侵略スルトカノ意思寸毫モ之レ無シ日本人朝鮮人カ自由ニ活動シ得ルカ如クナレハ自ラ日本ノ必要トスル意義カ如実ニ形付ケラルル次第ナリ殊ニ独リ日本人朝鮮人ノミナラス進ンテ内外人安住ノ地ト致ンタン(サウスルコトカヤカテ同地ノ位地ヲ固メ引テハ日露両国間ノ緩衝地帯トナルノテアル)是ヲ実行スルニ就テ自

一、自分ハ出来ルコトナラ支那ノ根本的統一ヲ希望シ彼等ノ此ノ希望ノ達成ヲサセテヤリタイト思ウテ居ルカ是カ為ニ即統一ノ促進ヲサセルカ為ニ我カ満州ニ対スル考ヲモ犠牲ニスル必要ハ断シテナイ多年ノ間支那ノ統一達成ニ協力ヲシテヤツタノモ同時ニ自然満州ヲ我カ思ウ様ニ導ケルト思フタカラテアル五月十八日ノ覚書モ此ノ趣旨カラ出テ居ル

一、第三師團ヲ出動シタノモ濟南事件ノ為ノミテハナイ此ノ覚書ニ依ル警告ヲ強カラシムル為テ此ノ警告ノ力テ張作霖ヲ奉天ニ帰ラシメンカ為テアル張ヲ奉天ニ帰ヘスコトカ南方ヲ助ケルコトトナリ北方側モ是ニヨリテ保全サルルト云フ意味カラ警告ヲ發シタノテアル即チ此ノ警告

居ル所テアル

一、三民主義青天白日旗ノ採用ヲ何テモナイト云フ者カアルカ自分ハ是ハ一葉落チテ天下ノ秋ヲ知ルテ駄目テアルト考ヘル南方勢力ノ侵入ハ飽ク迄モ避ケネハ日本ノ意思ハ達成セヌト確信スル満州ノ事ヲ南方政府ト交渉スレハ事ハ國際的トナル故飽ク迄モ避ケタイ

一、満州ノ治安ヲ維持スル為ニハ日本ハ敢テ犠牲ヲ惜シマヌ

ハ其ノ目的ヲ達シテ凡テ都合宜ク行ツタノテアル是ニ依ツテ列國ニモ日本ノ意思ヲ示スコトカ出来タノテアル

一、張作霖ヲ東三省ニ帰ヘラシメントシタノハ彼ナレハ南方ト妥協ハシマイ妥協シナイテ保境安民ヲヤルテアラウ張ヲシテ是ヲ自發的ニヤラシテヤラウト云フ自分ノ腹テアリ筋書テアツタ不幸ニシテ張作霖ハ死ンタ学良ニ対シテハ種々考ヘナクテハナラヌ硬軟宜シキヲ制シテ彼ノ心ヲ南ニヤラナイ様ニ仕向ケル必要カアル学良ヤ楊宇霆等連中テアル

一、今日ハ一通リ思フ様ニナツテ居ル学良、林總領事間ノ關係ハ個人トシテノ意見ノ交換テアリ南方トノ打切りモ日本ノ勸告ニヨツタモノテナク自發的ニシタトナツテ居ル万事自發的ニヤラセタイ出来ルタケ強制的ニヤラセルト言フコトヲ避ケネハナラヌ

一、満州ニ於ケル日本ノ行動ハ列國モ自衛上ノ必要カラヤツテ居ルコトハ知ツテ居ルカ日本トシテハ出来ル限り彼等ノ猜疑心ハ之ヲ避ケネハナラヌ

一、学良カ自發的ニ行動シタト云ツタコトハ我カ意ヲ得テア

分ハ偏狭ナル考ナシ各國人力自由ニ勵キ且ツ住ヒ得ル為門戸開放機會均等ノ趣旨ヲ以テ満州ヲ支那全土中最安全ナ一番発達シタ土地ト致シタ

一、尤モ共産主義的分子ノ容入ルコトハ飽ク迄モ之ヲ防ク必要アリ共産的分子カ容入レハ經濟上ノ基礎ヲ破ラレヤ響ヲ見ルニ至ルヘシ

一、自分ハ出来ルコトナラ支那ノ根本的統一ヲ希望シ彼等ノ此ノ希望ノ達成ヲサセテヤリタイト思ウテ居ルカ是カ為ニ即統一ノ促進ヲサセルカ為ニ我カ満州ニ対スル考ヲモ犠牲ニスル必要ハ断シテナイ多年ノ間支那ノ統一達成ニ協力ヲシテヤツタノモ同時ニ自然満州ヲ我カ思ウ様ニ導ケルト思フタカラテアル五月十八日ノ覚書モ此ノ趣旨カラ出テ居ル

一、滿州カ發展スレハ日本ノ状態モ好クナル外国人モ利益ヲ得ルノテアル

一、居住、營業、商租ノ問題ナソ日本カラテナク彼等カラ進シテヤルコトニシタイノテアル然ルニ彼等ハ日本カ併合スルノテハナイカト云ツタ風ナ恐怖心カラ誤解ヲ持ツテ居ル様タカラ是ヲ能ク諒解スル様ニ林大使カラ説イテ貰イタイ

一、日本政府ノ意思ヲ帶フル者ハ独リ林總領事ノミナルコトヲ林大使ヨリ能ク彼等ニ徹底サセテ貰イタイ

一、經濟上ノ援助ハ總領事ノ前テ満鉄社長ト相談サスコトニシタシ社長ハ能ク呑ミ込ンテ居ルカラ話ハツク筈テアル

(別添第二号) (極秘)

昭和三年七月三十一日

林大使ニ対スル訓令

一、滿州ハ日本ノ外廓テアル此地ノ治亂興廢ハ日本朝鮮ニ影響シ我国トシテハ重大ナル關係カ有ル乍去我々ハ滿州ヲ保護国トスルトカ領土的ニ侵略スルトカ云フ意思ハ寸

毫モ無イ同地方ノ秩序カ完全ニ維持セラルル為メニハ共產主義的分子ノ同地方ニ入込ムコトハ飽迄之レヲ防ク必要アリ蓋シ共產主義的分子カ入込メハ秩序ハ乱サレ經濟上ノ基礎ハ破ラレ東三省カ破滅ニ陥ルノミナラスヤカテ我朝鮮統治ニモ少カラヌ害ヲ及ホシ終ニハ對露關係ニモ惡影響ヲ及ホス虞カ有ルカラテアル

一、現在ノ如キ狀況ノ下ニ南方ト妥協スルコトハ前述ノ如キ日本ノ立場カラモ甚タ面白クナイコトト思ツテ居ツタ幸ヒ学良君カ保安總司令トシテノ責任上諸種ノ關係ヲ考慮セラレ自發的ニ妥協ヲ打切ラレタト云フコトハ誠ニ結構ナコトテアル今後モ凡テ自發的ニヤツテ行カルルナコトヲ考慮シテモ差支ヘ無イト思ソテ居ル

ラハ日本ハ蔭テ出来ルタケノ事ハスル積リテアル斯クスレハ東三省ヲ支那中テ一番進歩シタ地方トスルコトハ決シテ難事テ無ク而シテ之レハ東三省人民ノ為メテアリ又日本ノ為メテモアリ又結局ハ支那全体ノ為メテモアルト信スル張大元帥カ生キテ居ラレタナラ必ススウ云フ風ニシテ行カレタニ違ヒ無イト思フ学良君カ自發的ニ右様ニ進シテ行クコトハ亡大元帥ノ遺志ヲ繼ク所以テモアルト思フ

一、東三省ニ対シ外敵カ侵入シ来ルト云フ風ナ場合ニハ日本ハ東三省治安維持ヲ重視スルト云フ從來ノ方針カラ敢テ犠牲ヲ惜マヌ決心ヲ持ツテ居ル

一、保境安民シテ東三省ヲ支那全土中最モ進歩シタ地方トスル為メニハ裁兵、財政整理其他種々ナル事ヲヤル必要

カ有ロウ之レニ対シテ若シ日本ノ協力カ必要ト云フナラハ助力モ亦辞スル所テハ無イ此点ニツイテハ満鉄カ最モ便宜ナ地位ニ立ツテ居ルト思フカラ遠慮ナク話ヲシテ貰ヒタイ

一、日本カ東三省ニ対シ何ヲ要求スルタロウカト心配シテ居ル人モ有ルトノコトタカ日本ノ希望スルトコロハ左ノ

北 京

本 省 8月1日前着 発

## 第一一四五号\*

七月三十一日接到ノ三十日倫敦発路透電報ニ依レハ英国外相ハ三十日下院ニ於ケル支那問題ニ関スル質問ニ対スル答弁中滿州ニ関シ別電第一一四六号ノ如ク言明セリトノ事ナルカ張学良ニ対スル警告一件ノ報道世界ニ伝ヘラレテ以来各方面ニ鮮カラサル衝動ヲ与ヘタル次第ナルカ過日モ英國外相ハ議会ニ於テ滿州ハ支那ノ一部分ナリトノ答弁ヲナシタルカ今回ハ更ニ進ンテ別電ノ如ク言明シタル次第ニテ右答弁ノ詳細ハ何レ在英大使ヨリモ電報アルヘキ処右「ルーター」電報ニ依レハ英國ハ日本カ滿州ニ於テ大ナル利益ヲ有スルハ之ヲ認ムルモ全支那ニ於テ其義務ヲ履行シ得ヘキ一個ノ政府ノ下ニ一個ノ統一セル支那ノ樹立ヲ見ンコトヲ望ムトノ趣旨ニテ之ヲ仔細ニ吟味セハ滿州モ亦南京政府ノ統治ノ下ニ置カルヘク即チ滿州ニ於ケル如何ナル問題ニ付テモ終局的ノ責任ハ總テ南京政府ニアリト云フニ外ナラシシテ帝国政府ノ希望スルカ如ク滿州ノ諸問題ニ付滿州ノ統治者ト交渉スル事ニ対シテハ正面ヨリ之ヲ非認セントスルモノト見做サレサルニ非斯果シテ然リトセハ帝國政府ニ於テモ之ヲ黙視セラル事不可能カト思考ス元来滿州ニ対スル日本ノ立場ハ他ノ支那本部ニ対スル立場トハ異リ居リ而シテ右相違ノ基ク處ハ滿州ニ付テハ支那自ラ保全ノ能力ヲ欠キタルニ拘ラス日本カ國力ヲ賭シタル大戦争ノ結果漸ク他国ノ手ニ帰セサルヲ得セシメタル次第ニテ日本ノ此ノ努力ニ対スル報償トシテ支那ヨリ種々ノ利益ヲ提供シタル次第ナリ其ノ結果今日ノ特殊關係ヲ生スルニ至リタルモノニテ滿州ハ日本ノ經濟的生存及国防上日本ニハ最モ重要ナル関係ニ在ル次第ナルカ故ニ新借款團創立ノ際ニモ右ニ関シリテ第三〇二号

列國ノ諒解ヲ得タル次第ナリ  
本使ノ所謂青天白日旗ノ掲揚ヲ滿州ニ許サントスルカ如キハ單ニ国旗ト云フ形式的問題ニ過キサルモ政治機能ノ原動力ヲ滿州ヨリ南京ニ移動セシムルカ如キハ本使ノ全然予想セサリシ処ナリ英国外相ノ所説ハ要スルニ政治機能ノ原動力ヲ南京ニ移サントスルモノニシテ帝國政府ニ於テハ到底之ヲ黙視セラルコト不可能ナルヘク又別電ニテ御承知ノ如ク英国外相ノ所説ニハ「ロイド・ジョージ」モ非常ナル

英國ノ利益トスル處ハ支那ニ於テ義務ヲ尊重シ履行シ得ヘク又英國カ之ト友好的ナル解決ヲ交渉維持シ得ヘキ一個ノ政府ノ下ニ全支那カ統一セラレン事是ナリト言明セリ「ロイド・ジョージ」ハ滿州ニ関スル「チエンバーレン」ノ言明ヲ聞クヲ欣幸トシ又日本カ軍事上滿州ヲ併合スルニ至ルカ如キ事無カルヘキヲ期待スト述ヘ「ボンソンビ」ハ英國カ一度南京政府ヲ承認セハ滿州ニ於テ紛議ヲ生スル場合同政府ハ之ヲ國際連盟ニ提起シ以テ日本トノ間ニ起リ得ヘキ紛争ノ解決ヲ委ね得ヘキ地位ニアルヘシト述ヘタリ

在支各（総）領事、香港、南京ニ転電セリ  
~~~~~  
200 昭和3年8月2日 田中外務大臣より  
在米國芳沢公使  
日本政府代表は林総領事なる旨東三省側に諒  
解せしむることについて  
第一一四六号

（別電）  
北 京 発  
本 省 8月1日前着

英国外相ハ滿州ヲ以テ支那領土ノ一部ニ外ナラスト  
認ムト述ヘ又英國ハ日本カ滿州ニ於テ重大ナル利益關係ヲ

有シ日本人ノ保護ニ付憂慮スルハ無理ナラサルヲ認ムルモ

合第三〇二号  
林大使今回ノ奉天行ハ林個人トシテノ外本大臣ノ個人的代  
本電別電ト共ニ在支各総領事香港及南京へ転電セリ

理ヲモ兼ネ張作霖ノ葬儀ニ参列スルタメナルカ葬儀終了後

張学良ニ面会ノ機会ニ於テ同大使ヨリ奉天總領事ノ立場ヲ

篤ト支那側ニ諒解セシムル様併セテ依頼シ置ケリ右ハ從來

日本側各種ノ人物カ本大臣若ハ政府ノ代表ナリト称シテ奉

天官憲ニ接近シ支那側ヲ迷ハシメタルコトアルノミナラス

支那側ニ於テモ在満各機關ヲ夫々政府ノ代表者タルカノ如

クニ誤解シタルカ如キコトモ有之タルニ顧ミ政府代表者ト

シテハ唯奉天總領事アルノミナルコトヲ篤ト支那側ニ諒解

セシメ置クコト必要ナリト認メタルニ依ルモノナリ尚右会

見ノ際ニハ自然東三省ト日本トノ関係ニ談及スルコトアル

ヘシト思考スルモ其節林大使ニ於テ努メテ抽象的ニ応接シ

可成何等具体的問題ニハ触レサル筈ナルニ付テハ新聞電報

等ニ依リ大袈裟ニ報道セラル様ノコトアル場合ニハ右御

含ミノ上外部ニ対シテハ必要ニ応シ適宜説明シ置カレタシ

(北京宛ノ分ニハ「訓令トシテ上海、南京、天津、青島、

廣東、哈爾賓ニ転電シ参考トシテ奉天ニ転電アリタシ」ト

付記シ米宛ノ分ニハ「訓令トシテ英ニ転電シ英ヨリ仮、

独、露、伊、白ニ転電セシメラレタシ」ト付記スルコト)

南方との妥協を決定の張学良に対し警告付与

について

付記 八月六日付

南北妥協阻止のため張学良に対し武断的制圧  
を加えることの不可について

奉天 8月2日後発  
本省 8月2日後着

#### \*第四八〇号

八月二日午前十時張学良ニ面会シ談偶々新聞記事ニ及ヘル  
処学良ハ最近我新聞ニ現ハレタル南北妥協阻止ニ關スル閣

下ノ談話及政府筋ノ発表意見ハ總テ南北妥協阻止ハ学良ヨリ本官ニ個人トシテ意見ヲ求メ本官ヨリ勸告ヲ与ヘタルモ

ノト為シ責任ヲ全部学良ニ帰セシムルカ如キ傾向アリ之カ

為各方面ヨリ非難攻撃シ来ル者頗ル多ク日本政府ハ日本ニ

親ム者ヲ殊ニ苦ムルニ非セヤトサヘ疑ハル就テハ自分ハ諸

般ノ事情ヨリ葬式終了後決定的意思表示ヲ為ス積リナリト

述ヘタルニ依リ本官ヨリ決定的意思表示トハ南北妥協ヲ意

味スルモノナリヤト問ヘルニ南方ヨリハ其ノ後電報ヲ以テ  
奉天ハ支那ノ領土ニ非セヤ國家ニ從ハシシテ外国ノ命令ヲ  
奉スルヤ米國ハ既ニ国民政府ヲ承認シ英國亦之ニ從ハムト  
ス英国外相ハ議会ニ於テ滿州問題ニ関シ強キ意志表示ヲ為  
セリ等ノ情ヲ具シテ妥協ヲ促進シ來リ内部ニ於テモ妥協即  
決ノ空氣愈盛ニシテ此ノ儘ニ過クルニ於テハ吉林及黑龍江  
等ヨリ早く青天白日旗ヲ掲クルニ至リ之ヲ阻止シ得サル事  
トナルヘキニ依リ熟考ノ上自己ノ意思ヲ決定セル次第ナリ  
ト述ヘタリ依テ本官ハ一、二國ノ承認ハ必スシモ國家統一  
ヲ意味スルモノニ非ス又青天白日旗ヲ掲ケサルハ強チ東三  
省ノミニ非ス

而シテ南京政府ハ最モ重大ナル關係アル善隣ノ我国ニ對シ  
國際法ヲ無視シテ條約破棄ヲ宣言スル等ノ完全ナル政府ト

シテハ有ル間敷キ態度ヲ執リ且南方ノ形勢果シテ直ニ統一

ヲ完成シ得ルカ疑ハシキヲ以テ日露戰爭以來重大ナル關係

アル東三省ノ主人公タル貴総司令ニ形勢觀望ヲ勧メタルモ

ノニシテ東三省ニ於テ我居留民及財產カ無條約國ノ待遇ヲ

受ケルカ如キ事ハ斷シテ忍ヒ得サル処ナリ而シテ我方ニ於  
テ日本ニ親ム者ヲ苦シムルト言フカ如キハ非常ナル誤解ニ

#### (付記)

林總領事電第四八〇号ニ關シ

三、八、六

一、滿州政權カ南方政府ノ統制下ニ屈伏シ其ノ結果外交交渉ノ一切ヲ挙ケテ後者一手ニ委スルノ態度ニ出ツルニ於

テハ我滿蒙既得権益ノ擁護上甚大ナル障害トモナルヘキニ付南方勢力ノ進入ニ對シテハ極力之ヲ阻止スルノ措置ヲ執ルコト適当ニシテ必要ノコト認ムルモ其ノ手段方法ニ至リテハ先以テ百方外交機關ノ活躍ニ俟チ露骨ニ武力的彈圧ヲ以テ先駆トナスノ態度ハ之ヲ慎マサルヘカラス

二、学良ノ態度約変換言スレハ南方妥協決裂逆転カ必然的ニ滿蒙治安ノ攪乱我既得権益ノ侵害ヲ免レスト断シ此予測ノ下ニ直チニ我自衛権ヲ行使シテ之ニ武断的制圧ヲ加フルコトハ我方利否ノ打算問題トシテ或ハ事前ニ其ノ万全ヲ図ルノ利ヲ收メ用兵上ノ便益亦少カラサルヘシト雖此予断ハ必シモ大方ノ首肯スル所トナリ難ク國論為メニ統一ヲ欠キ支那側ハ我制圧力ノ徹底性ヲ疑ヒ第三国ハ我举措ノ罅隙ヲ窺ヒ幾多重大ナル障害ニ遭遇スルノ結果トナルヘシ

三、滿州政府カ驕テハ青天白日旗ノ下ニ三民主義ヲ唱和ス

ルニ至ルコト必然已ムヲ得サルノ大勢ナリト看破シ今ニ於テ之カ対策ヲ講シ置クコト寧ロ安全ナリトセスヤ此際遮ニ無ニ此潮流ニ逆航シテ一時踟躕ノ目的ヲ糊塗シ

202 昭和3年8月(2)日 在中国芳沢公使より

田中外務大臣宛(電報)

英国外相の議会答弁に対し我が國の滿州における立場を宣言する必要について

北 京 本 省 癸 亥 年 八 月 二 日 癸 亥 年 八 月 二 日

\* 第一一五〇号  
往電第一一四五号ニ関シ

合モアルヘシト思考セラル故ニ此ノ際英國政府ニ對スル交渉ナリ又ハ一般世間ヘノ帝國政府ノ宣言ナリニテ我方ノ滿州ニ對スル立場ヲ宣明セラルコト必要ナリト存ス在支各総領事、南京、香港へ転電セリ

203 昭和3年8月3日 在奉天林總領事より  
付 記 八月三日付南參謀次長より鈴木參謀總長宛電  
田中外務大臣宛(電報)

青天白日旗掲揚に反対の旨張學良へ申入れについて

張學良に対する妥協中止勧告について  
奉 天 8月3日後発  
本 省 8月4日前着

スル点ニ於テ人後ニ落チサルハ勿論ナルモ滿州、蒙古、西

藏及新疆モ支那ノ一部ナラストハ謂ヒ難シ然レトモ一方之

シムルハ了解ニ苦シム処ナリ日本カ元來支那ノ統一ヲ希望

ンバーレン」氏ハ國際關係ノ知識ニ乏シキ人物故或ハ日本

ト滿州トノ關係ニ付左程明確ニ承知セサルヤモ計ラレサルモ兔モ角下院ニ於テ現ニ斯ノ如ク答弁セルヲ此儘黙過セハ

将来必ス英國政府ハ此ノ答弁ヲ引用シテ我方ニ応酬スル場

得タリタルモ其ノ永続性ハ如何アランカ將又永ク此実力的對峙策ニ終始スルコトハ國家ノ大計上其ノ利否如何識者ノ省察ヲ望ム所ナリ

四、案スルニ此機會ニ於テ学良乃至在満要人等ニ對シ最モ嚴肅ニ態度ノ表明ヲ求メ且我主張ノ貫徹ヲ圖ル為幾多ノ外交的折衝ヲ試ムルコト最モ喫緊ノコトト考フルモ暫ク載ヲ收メテ正論ニ立チ敢テ武断的彈圧ヲ加フルコトアルヘカラス事態悪化ノ結果他日滿州ノ治安カ如実ニ攪乱シ事實上我既得ノ権益カ侵害セラルコトアラハ決然起テ之ヲ排撃スヘクソレ迄ハ過早ニ兵ヲ用フヘカラス

モアリ旁約三十分钟間談話ヲ交換セルカ本官カ昨日ノ決心云々ハ事實ナリヤト問ヘルニ對シ昨日ハ三、四日前以来内外ノ圧迫益々強マリソ為葬式後青天白日旗ヲ掲クルノ已ムナキニ至ルヤモ知レサル考ヲ起シタルモノナルモ未タ決心セルモノニアラスト答ヘタルヲ以テ本官ハ今從来ノ決心ヲ翻シテ南方ニ同スル如キハ日本ニ喧嘩ヲ仕掛けクルニ同シク日本ハ飽迄保境安民ノ貴總司令ヲ援クル積ナルヲ以テ如何ナル圧迫モ之ヲ排除シテ進ムヘク尚近ク林大使モ來奉スルヲ以テ同大使ニ親シク意中ヲ披瀝シテ相談スヘキ旨ヲ懇篤ニ勸告シ之ヲ承諾セシメ置キタリ

## (付記)

8月3日後発  
8月4日前着

## 第四八九号

奉天  
本省  
8月5日後着

(電報番号久)  
學良ハ南方及楊宇霆等ノ圧迫ニ依リ青天白日旗ヲ掲ケ三民主義遵奉ヲ葬式直後ニ實行スルノ傾向ニ在リ  
若シ日本カ之ヲ圧迫スレハ下野スルノ外ナシトセリ就テハ此際至急政府ノ意圖ヲ總領事及軍司令官ニ指令アリ度シ小官ハ本件ニ就キ林男ト相談ノ結果學良ニ妥協中止、保境安

日本ハ飽迄保境安民ノ貴總司令ヲ援クル積ナルヲ以テ如何ナル圧迫モ之ヲ排除シテ進ムヘク尚近ク林大使モ來奉スルヲ以テ同大使ニ親シク意中ヲ披瀝シテ相談スヘキ旨ヲ懇篤ニ勸告シ之ヲ承諾セシメ置キタリ

講じ置くの必要について  
南北妥協の場合を予想し今より時局転回策を

民ノ方針ニ邁進スヘキコトヲ勸告シ且ツ日本カ十分學良ヲ支持ス可キコトノ言明ヲ林男ヨリ注意スルハ臨機ノ处置トセリ然レトモ政府ヨリ此ノ主義ヲ指示セラルレハ林男トシテモ更ニ好都合ト考フ

204 昭和3年8月(5)日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

張學良ノ南方妥協ニ對スル態度ハ累次電報ノ通ニテ当地ニ於ケル南北妥協促進ノ空氣ハ日増シニ濃厚トナリ彼ハ目下我勸告ニ圧セラレ已ム無ク消極的態度ヲ執リツツアルモ外ニハ南方ヨリ内ニハ一般輿論ニ迫ラレ可成リ苦シキ立場ニ在リ彼ハ差当リ我勸告ニ聽キ未タ青天白日旗ヲ掲クルニ至ラスト雖モ南方ノ形勢今ヨリモ悪化セサル限り早晚我勸告ヲ排シテ南方ニ聽從スルカ或ハ進退谷マリテ下野ノ已ム無

キニ至ル無キヲ惧ル從テ我方トシテハ之等ノ場合ヲ予想シ今ヨリ帝國ノ威信ヲモ傷付ケス支那ノ輕侮ヲモ招カサル時局転回ノ策ヲ講シ置クノ必要頗ル緊急ナルヤニ思考ス  
卑見ニ依レハ南方ノ我国ニ對スル態度一変シ條約破棄ヲ取消ス等好意ヲ現ハシ来ル場合ニハ我方ニ於テモ之ヲ機トシ東三省ノ南北妥協ヲ容認スル事得策ナリト考フルモ然ラスシテ南方ノ我国ニ對スル態度今日ノ儘ニシテ好転セス學良カ内外ノ圧迫ニ依リ我警告ヲ排シテ強ヒテ南方ト妥協シ青天白日旗ヲ掲ケタル場合アリタリトテ直ニ武力ヲ使用シテ之ヲ打倒スル訣ニモ行カサルヲ以テ其ノ場合ニハ予テ往電第四二三号ヲ以テ稟議セル如ク我懇切ナル勸告ヲ聽カスシテ國際法規慣習ヲ無視シ一方的ニ條約ノ廢棄ヲ実行スルカ如キ乱暴ナル南方ト合作スル東三省政府ハ如何ニシテ我既得ノ條約上ノ權益ヲ保証セムトスルカ質シ此ノ機會ニ予テヨリ票電ノ通満蒙開發ノ実ヲ挙クルノ交渉ヲ開始シ彼ヲシテ大正四年五月ノ日支條約ヲ始メ其ノ後ノ各種規約ニ依ル我權利ヲ確認セシムル手段ヲ執リ土地問題ヲ解決シ先般北京ニ於テ調印セル鐵道敷設ヲ急速着手セシムル等着々我權益ノ拡大充実ヲ計リ若シ聽カスムハ我方ニ於テハ威力使

在支公使ニ轉電済

### 南北妥協反対なる旨張學良へ申し入れについて

て

付記 八月七日付參謀本部作成

「滿州ノ形勢急変ニ応スル措置案」

本省 8月6日後発

\*第一五〇号

貴電第四八〇号、<sup>(二〇文書)</sup>第四八四号並<sup>(二〇文書)</sup>第四八九号ニ関シ

ニ發表セルハ寧ロ支那側ノ立場ヲ顧慮シタル為メニシテ即

学良ヨリノ求メニヨリ貴官カ意見ヲ陳述セシニ止ル旨世間

ニ發表セルハ寧ロ支那側ノ立場ヲ顧慮シタル為メニシテ即チ日本ノ意向ヲ聞キタルコトモ將又妥協ヲ打切ルニ決定セルコトモ一ニ学良ノ自發的行為ナルコトヲ明カニシ以テ学良ニ權威ツケントスルノ見地ニ出テタルモノナリ本大臣ハ單ニ此ノ問題ノミナラス将来各種ノ問題ニツキテモ支那側ヨリ自發的ニ行動シタリト認メラルル方法ニヨリテ凡テヲ解決シ行クコト好都合ナリト考ヘ居ル次第ナリ次ニ学良ハ周囲ノ圧迫ニ依リテ妥協ノ決心ヲ為シタリト云フモ二日学良カ貴官ニ妥協ノ決意ヲ申出タルハ談偶々新聞記事ニ及ヒタル際ノコトナルノミナラス現ニ貴電第四八四号ニ依レハ未タ決心セルモノニハアラストノコトニテ彼此綜合スレハ

良カ貴官ニ妥協ノ決意ヲ申出タルハ談偶々新聞記事ニ及ヒタル際ノコトナルノミナラス現ニ貴電第四八四号ニ依レハ未タ決心セルモノニハアラストノコトニテ彼此綜合スレハ

(付記)

昭和三年八月七日 參謀本部第二部

\* 滿州ノ形勢急変ニ応スル措置案

一、此際学良ニ重テ妥協中止ニ関スル帝国政府ノ真意ヲ説明スルト共ニ嚴重ナル警告ヲ發シ若ん学良ニンテ我勸告ニ從ハサルカ或ハ辭職シテ難局ニ当ルヲ避ケムトスルトキハ帝国ハ自然滿州ニ對スル自衛的措置ヲ必要トスヘク尚学良個人ニ對スル從来ノ好意的態度ヲ変更スヘキハ勿論現ニ日滿間ニ於ケル好意的一切ノ關係ヲ撤回スヘキ旨ヲ以テ威嚇ス

二、右威嚇的警告ノ結果妥協ヲ阻止シ得ル見込アル場合ニ於テハ帝国ハ中外ニ對シ左記要旨ノ声明ヲ發スルコト

206 昭和3年8月8日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

林特派大使よりの南北妥協問題に関する張學良との会談内容報告

奉天 8月8日後発  
本省 8月9日前着

\* 第四九六号

林大使ヨリ

八日午後四時林總領事河野副領事ヲ伴ヒ学良ヲ訪問シ東三省ニ對スル帝国政府ノ方針ハ既ニ年アリ明治三十八年善後條約會議ノ際我全權ヨリ滿州ニ對スル治安維持施政改善ニ關スル条項ヲ提案シ當時支那ノ希望ニ依リ特ニ之ヲ協定ニ入ルル事ヲ避ケ會議ニ止メタル事實モアル通リ爾來滿州ノ治安維持施政改善ヲ以テ帝国ノ責務ト深ク考ヘ居リ今尚変ル事無キ旨ヲ説キタル後七月三十一日付吉田次官発林總領事宛來信付属第二号ノ趣旨ニ基キ須ラク保境安民施政改善ヲ根本義トスヘク此ノ際早急ニ妥協ヲ促進スルカ如キハ父ノ遺訓ニモ背キ学良ノ為ニハ素ヨリ東三省乃至日本ノ為断シテ不可ナル所以ヲ嚴重ニ申入レタル処学良ハ黙々之ヲ聽

五、前項ノ場合ニ於テハ東三省ノ旧派分子ヲ裏面的ニ操縦シ学良楊宇霆等ノ新派ヲ駆逐シ新ニ我政策ニ合致スル親日的政権ノ樹立ヲ助成シ之ヲ對手トシテ積極的ニ施設ヲ措置ニ出ツ

キタル後妥協問題ハ既ニ輿論ノ大勢動カシ難ク一方日本ヨリ妥協ノ責任ヲ自分（学良）ニ帰セントスルカ如キ態度ヲ取ラレ甚タ苦境ニ陥リ到底此ノ儘ニシ難キ立場ニアリトテ

前回總領事ニ証明セルト同様ノ意味ヲ繰返シタルヲ以テ總領事ヨリ貴電第一五〇号ノ趣旨ヲ更ニ説明シ現ニ去ル二十

四日總司令ノ命ニ依リ王家楨來訪ノ節モ妥協問題ハ自發的ニ打切リタリト言明センニアラスヤト付加ヘタルニ学良ハ日本ノ真意ハ兎モ角結果ニ於テハ甚タ苦シキ立場ニ立至レリト愚痴ヲ述ヘ仮ニ大使ニ於テ自分ノ立場ニ立タレタラハ如何ト反問セルヲ以テ若シ本使カ貴下（学良）ノ立場ナラハ断シテ妥協セサルヘク兎モ角此ノ際妥協白日旗掲揚ノ絶対不可ナルヲ更ニ強調セルニ学良ハ最後ノ決心ハ更ニ明瞭日領事館訪問ノ上申上クヘシト答ヘ之ニテ会談ヲ打切り晩餐ヲ共ニシタル後帰館ス右取敢

207 昭和3年8月8日 在奉天林總領事より  
田中 外務大臣宛

林特派大使の張作霖葬儀参列に関する状況について

公第五八九号 昭和三年八月八日

（8月16日接受）

在奉天 総領事 林 久治郎（印）

外務大臣男爵 田中 義一 殿

林大使張作霖葬儀参列概況報告ノ件

林大使ハ大連迄出迎ヘタル支那側接待員李奉天市長王駐日武官等ト共ニ四日朝八時五十分奉天駅着停車場ニハ本官及村岡関東軍司令官以下邦人側數十名支那側ヨリハ張學良代表及接待委員長王蔭泰高交渉員王秘書等出迎エ大使座乗列車着ト共ニ「プラットホーム」ニ整列セル支那軍樂隊ハ君ヶ代ヲ吹奏シテ歓迎ノ意ヲ表シ張學良ハ特ニ大使常用トシテ滯在中自用自動車ヲ提供セリ

翌五日支那側トノ打合セニ依リ午前十時本官以下関東長官代理藤岡警務局長、朝鮮總督代理生田内務局長、松岡滿鉄副社長、赤十字社代表、前関東長官兒玉伯代理其他當館員滿鐵理事等ヲ隨エ大礼服正装自動車十台ヲ列ネ其前後ヲ警官「オートバイ」ヲ以テ警衛シ各自動車ニ警官各一名ヲ警乗セシメ葬場大帥府ニ赴キ王蔭泰等ノ接待ニ依リ応接室ニ

少憩後張作霖靈前ニ進ミ三拜ノ礼ヲ行ヒ応接室ニ引返シ次テ大使及本官ハ閔東厅及朝鮮總督府代表者隨同別室ニ導カレ張學良ニ面接親シク弔意ヲ述ヘ学良之ニ答エ別室ヲ辞去シ休憩室ニ於テ学銘及学曹兩氏ノ答礼ヲ受ケ接待員ノ誘導ニ依リ出門十一時帰館無事葬儀参列ヲ了セリ

尚各國領事ハ同日十一時十五分大帥府ニ集合礼拝スルコトニ打合セアリタルモ右ニハ本官加ハラス蜂谷領事ヲ代理參加セシメタリ

右御参考迄報告ス  
本信写送付先 在支公使

208 昭和3年8月9日 在奉天林總領事より  
田中 外務大臣宛（電報）

林特派大使よりの南北妥協問題に関する張學

良との会談内容報告

奉天 8月9日後発  
本省 8月9日後着

\* 第四九八号  
往電第四九六号ニ関シ

学良ハ九日午前十時王家楨ヲ伴ヒ來訪シ昨日ノ答礼ニ來レリト前提ノ上妥協問題ニ關シ本日保安会ニテ袁金鑑議長ノ下ニ討議中ニテ其ノ結果如何ハ未タ知リ難キモ一方方本仁ハ国民政府ノ代表トシテ本問題商議ノ為來奉セルモノナルカ自分（学良）ノ意見トシテハ仮令妥協成立スルモ保境安民ノ根本精神ニ於テハ変ルコト無ク且是カ為日本ニ迷惑ヲ掛クルコト絶対ニ無シト思考シ居リ又日本ノ満州ニ於ケル條約上ノ権利ヲ擁護スル必要アルコトモ充分認メ居ル次第ナルモ只妥協ニ関スル大勢ハ如何トモ動カシ難シト前日同様繰返シタリ依テ總領事ヨリ日本ノ満州ニ對スル方針ハ昨日既ニ大使ヨリ申述ヘタル通り明治三十八年善後會議ニ於ケル東三省治安維持施政改善ニ関スル會議録中ノ貴國側声明ヲ実行セラル点ニアル所若南北妥協ノ結果例へハ現ニ南方ニテ宣言セル如キ条約破棄ヲ實行セムカ

日本ノ満州ニ於ケル権益ハ蹂躪セラレ右声明ノ趣旨トモ相反シ憂慮スヘキ事態ヲ釀スヘキ旨述ヘタルニ学良ハ元来三民主義ハ亡父モ之ヲ謳歌シ居ル處ニテ排斥スヘキハ共産主義ノミナルヲ以テ此ノ三民主義ヲ奉スルハ敢テ父ノ遺訓ニ背クモノニ非スト述ヘタルニ依リ本使ヨリ今回本使ノ來奉

ニ際シ田中総理ヨリ特ニ依頼セラレタル伝言ハ君ハ若シ父作霖存命セシナランニハ必スヤ真ノ保境安民ニ還リ日本ト円満ナル関係ノ下ニ三省施政改善ヲ旨トシテ其ノ思フ所ヲ実行セシモノト考フルカ故ニ子タル学良ニ於テモ右父ノ遺訓ヲ体スヘク今日ノ如ク共産主義ト混同セル三民主義ヲ奉スルカ如キ抑モ誤ニテ或ハ外形ノミヲ採リテ実ヲ採ラスト云フモ斯カル事実不可能ナルニ依リ宜シク現状ノ儘形勢觀望ノ態度ヲ持スヘキ点ニアリ唯斯ク云ヘアトテ日本政府トシテ東三省ヲ独立セシメ之ヲ思フ儘ニセントスルトカ或ハ領土的野心ヲ抱懷スルカ如キ意志ハ毫モ無キ旨ヲ繰返シ断言シ置クヘシト申聞ケタル処学良ハ元来自分個人トシテハ三民主義白日旗ニハ賛成シ居ラサルモ大勢止ミ難シト又復繰返セルニ依リ更ニ本使ヨリ昨日來大勢既ニ云々口ニセラルモ大勢ハ総司令自ラ作ルヘク誤レル濁流ニ対シテハ宣シク総司令ノ威信ト威力トヲ以テ彈圧スルカ可ナルヘシト強ク含メタルモ学良ハ父ト威力ノ相違アルヲ嘲チ殊ニ過般妥協中止カ自發的ニ出タリトノ日本側声明ノ為益苦境ニ陥リ本日保安会討議ノ結果如何ニ依リテハ下野スル外ナシト愚痴ヲ零シタルヲ以テ更ニ総領事ヨリ総司令ノ意ニ反ス

繰返セルニ依リ更ニ本使ヨリ昨日來大勢既ニ云々口ニセラルモ大勢ハ総司令自ラ作ルヘク誤レル濁流ニ対シテハ宣シク総司令ノ威信ト威力トヲ以テ彈圧スルカ可ナルヘシト強ク含メタルモ学良ハ父ト威力ノ相違アルヲ嘲チ殊ニ過般妥協中止カ自發的ニ出タリトノ日本側声明ノ為益苦境ニ陥リ本日保安会討議ノ結果如何ニ依リテハ下野スル外ナシト愚痴ヲ零シタルヲ以テ更ニ総領事ヨリ総司令ノ意ニ反ス

209 昭和3年8月10日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

東三省政治体制の南方化阻止について

北 京

本 省

8月10日後着

\*  
第一一八九号  
奉天總領事發閣下宛電報第208文書  
四九八号ニ閲シ

九号ノ理由ニ基キ右ノ如キ措置ニ対シテハ必スヤ諒解スヘキカト認メラル

奉天累次ノ電報ニ依ルニ東三省幹部ハ今ヤ何レモ妥協ニ傾キ張學良モ四畳ノ大勢ニ動カサレテ妥協ニ走ラントシ我方ニ於テ之ニ強圧ヲ加フレハ事実下野スルノ惧アルヤニ見受ケラルル処仮令学良下野スルモ東三省幹部ノ態度ニハ変更ヲ見サルヘキノミナラス我方ニ於テ強ク出ツレハ出ツル程益々妥協ニ傾クヘク大勢既ニ茲ニ至レル以上我方ニ於テ無理ニ大勢ニ抗スルモ果シテ如何程ノ効果アルヘキヤ疑ナキ能ハス從テ往電第一〇五四号ノ如ク國旗掲揚ノ如キ形式問題將又三民主義ノ如キ抽象的問題ニハ寛大ニシテ東三省政治ノ南方化ノ如キ主要問題ニ対シテハ断然反対スル事トシ此ノ際國旗ノ掲揚ヲ容認シテ南北妥協ヲ此ノ辺ニテ折合ハシメ當方往電(七文書)第一一七九号ノ趣旨ニ従ヒ隨時機ヲ見テ經濟開発ノ交渉ヲ進ムルヲ得策トスルヤニ思考ス尤モ一旦國旗ノ掲揚ヲ認ムル以上後日東三省政治ノ南方化ヲ憂慮スル惧無キヲ考慮スル必要アル處我方トシテハ東三省ノ政治力南化スル時ハ自衛権ノ発動トシテ当然東三省ノ内政ニ干渉シテ強力ヲ用ヒテモ不穏ナル南方ノ政治ヲ排斥シ得ヘキカ故ニ右ハ予メ支那側ニモ内達シ後日右様ノ事態發生スル場合ハ之ヲ實行スルモ差支無カルヘク外国側モ往電第一一七

ル決議ノ如キハ断然拒絶スヘク日本亦之ニ対シ援助ヲ惜マサルヘシ然レ共若シ我勸告ニ反シ乱暴ナル南方ト妥協ヲ成立セシムル如キコトアランカ我既得権利益ヲ擁護スル為必要ナル行動ヲ執ルノ止ムナキニ至ルヘキニ付是等ノ結果ニ付テハ予メ充分慎重考慮ノ要アルヘシト力説セルカ結局学良ハ妥協中止ニ対スル最後ノ決定ヲ述ヘル事無ク本日ノ会見ノ趣旨ヲ直ニ開会中ノ保安会ノ討議ニ付シ其ノ決議ヲ待ツヘキヲ述ヘ会見約二時間余ニシテ引取リタリ尚本日ノ会見ニ於テハ学良ノ心中未タ必スシモ決定的ナラスト観察セラル節アリタルヲ以テ當方ノ決意ヲ極メテ率直ニ言明シ置キタルニ付御含ミアリタ

210 昭和3年8月10日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛(電報)  
劉哲保安会委員より南北妥協交渉三カ月中止  
申出について  
奉 天 8月10日後発  
本 省 8月11日前着  
第五〇九号  
八月九日夜張學良ヨリ明日暇アラハ來訪シ吳レマンキヤトノ間合アリタルヲ以テ拒絶シタルニ十日午前楊策(吉林人元農工部總務府長)劉哲代理トシテ來訪シ昨夜ノ保安会トノ問合アリタルヲ以テ拒絶シタルニ十日午前楊策(吉林人元農工部總務府長)劉哲代理トシテ來訪シ昨夜ノ保安会ニテハ南北妥協ノ已ムヲ得サルコトヲ決議シ但シ何日ヨリ青天白日旗ヲ掲ケルカ又黒龍江吉林ト順次掲揚スルヤハ未タ決定セスト告ケ尚劉哲ハ日支間ノ険惡ナル空氣ヲ一掃セムコトヲ希望シ午後來訪ノ旨ヲ述ヘタルカ午後二時半劉哲來訪シ保安会委員ノ資格ヲ用ヒス友人トシテ談話シ度シト前置シテ南北妥協問題ニ談及シ東三省ニ於ケル日支ノ關係

ヲ今日以上ニ陰惡ナラシムルハ両國ノ為ニ不幸千万ナルヲ以テ目下ノ妥協問題ニ関シ日本ノ意向ヲモ無視セス同時ニ南方ヨリモ苦シメラレサル何等カノ良策無キヤト質問セルニ依リ本官ハ我方ニ於テハ南方カ滿州ニ侵入スルカ如キ場合ニハ棄テ置カサルノ決心アリ只南方ノ形勢如何ニ変化スルヤ明カナラス果シテ統一ヲ完成スルヤ頗ル疑ハシキヲ以テ形勢監視ヲ勧告シタル次第ナリ毫モ永久ニ統一ヲ邪魔スルカ如キ意思ヲ存セサルナリト述ヘタルニ劉ハ然ラハ一定ノ期限ヲ付シテ妥協ヲ許ス事ハ如何ニヤ例へハ三個月ヲ期限トシ此ノ期限経過後ハ妥協ヲ許ス事トシ外部ニハ発表セス南方ニ対シテハ其ノ意味ニテ引張ラハ其ノ間ニハ南方ノ形勢變化シ或ハ妥協ノ必要無クナルヤモ知レスト申出タセルニ依リ本官ヨリ右三個月ノ期限ハ学良及保安会ノ諒解ヲ得タルモノナリヤト反問セル處劉ハ未タ保安会及学良ノ同意ヲ経居ラス然レトモ八九分ハ彼等ノ同意ヲ得ル自信アリ総領事ニ於テ同意ナラハ今夜直ニ保安会ヲ召集シ何分ノ儀明朝報告スヘント云ヘルニ依リ本官ハ学良及保安会ニシテ右様ノ態度ヲ採ル事ニ決セハ政府ニ報告シテ訓令ヲ請フノ労ヲ取ル事ヲ辞セサルヘキ旨ヲ告ケ置キタリ尚劉ハ政府ノ

待ツテ電請シ後兩三日間ニ得ラルヘシト語リ置キタリ就テハ明十一日午前劉ノ報告アリ次第更ニ電報スヘキモ右三個月期限付妥協ニ対スル御意向成ルヘク早ク御回示相成様予メ御詮議置相成度シ

211 昭和3年8月11日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

### 保安会における三ヵ月間の南北妥協中止決定について

奉天 8月11日前発 本省 8月11日後着  
第五一一号

往電第五〇九号ニ閑シ  
第五一一号  
楊策ハ劉哲ノ代理トシテ一日朝本官ヲ來訪シ昨夜保安会ニテ協議ノ結果兎モ角今後三個月間形勢観望ノコトニ議纏リタル旨並ニ今朝中学良及劉哲同列ニテ右ニ閑シ本官ニ何分ノ挨拶ニ来ルヘキ旨申来レリ不取敢

ノ委員ハ特ニ何等ノ意見ナク結局十日夜ノ保安会ハ劉哲ノ主張ノ如ク大体纏マリタルモノノ如シ而シテ九日夜ノ保安会ニハ楊宇霆モ特ニ出席シタルカ緘默シテ何等ノ意思表示ヲ為サス楊ハ先月帰奉以来学良ヨリ緊急事項ニ付テハ殆ト総テ相談ヲ受ケ居ル如キモ衆人列座ノ場所ニ於テハ張作霖生存中ト異リ極メテ消極的ニ振舞ヒ好機運ノ転換シ来ル迄鋒鉈ヲ隠シ居ルモノノ如シト御参考迄

ノ委員ハ特ニ何等ノ意見ナク結局十日夜ノ保安会ハ劉哲ノ主張ノ如ク大体纏マリタルモノノ如シ而シテ九日夜ノ保安会ニハ楊宇霆モ特ニ出席シタルカ緘默シテ何等ノ意思表示ヲ為サス楊ハ先月帰奉以来学良ヨリ緊急事項ニ付テハ殆ト総テ相談ヲ受ケ居ル如キモ衆人列座ノ場所ニ於テハ張作霖生存中ト異リ極メテ消極的ニ振舞ヒ好機運ノ転換シ来ル迄鋒鉈ヲ隠シ居ルモノノ如シト御参考迄

212 昭和3年8月11日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

### 保安会における南北妥協問題協議の内幕に関する情報について

奉天 8月11日後発 本省 8月11日後着

第五一二号(極秘)  
往電第五一二号ニ閑シ

妥協ニ関スル支那側協議ノ内幕ニ付テ劉哲及楊策等ノ談話ヲ総合スルニ王樹幹カ東三省代表トシテ北京ニ赴キシ以前ハ熱心ナル非妥協論者ナリソモ北京ニ於テ南方派ヨリ説カレ最熱心ナル妥協論者ニ変化シ帰奉以来日本ノ勧告ヲ聞クハ是レ東三省カ日本ノ保護領タルコトヲ認ムモノナリトシカ十日午後劉哲等ヨリ日本カ強硬政策ヲ執リ三省ニ紛糾ヲ釀ス場合ニ王ハ果シテ責任ヲ負フヘキヤヲ問ハレ漸次軟化スルニ至レルカ如シ張作相ハ吉林ニ関スル事項及軍事以ノ論ヲ高調シ保安会委員ノ多數ハ之ニ順応スルノ外ナカリ

ノ委員ハ特ニ何等ノ意見ナク結局十日夜ノ保安会ハ劉哲ノ主張ノ如ク大体纏マリタルモノノ如シ而シテ九日夜ノ保安会ニハ楊宇霆モ特ニ出席シタルカ緘默シテ何等ノ意思表示ヲ為サス楊ハ先月帰奉以来学良ヨリ緊急事項ニ付テハ殆ト総テ相談ヲ受ケ居ル如キモ衆人列座ノ場所ニ於テハ張作霖生存中ト異リ極メテ消極的ニ振舞ヒ好機運ノ転換シ来ル迄鋒鉈ヲ隠シ居ルモノノ如シト御参考迄

213 昭和3年8月11日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

### 保安会における三ヵ月間の南北妥協中止決定に關し林特派大使への通告振りについて

奉天 8月11日後発 本省 8月12日前着  
第五一四号  
往電第五一二号ニ閑シ

ノ委員ハ特ニ何等ノ意見ナク結局十日夜ノ保安会ハ劉哲ノ主張ノ如ク大体纏マリタルモノノ如シ而シテ九日夜ノ保安会ニハ楊宇霆モ特ニ出席シタルカ緘默シテ何等ノ意思表示ヲ為サス楊ハ先月帰奉以来学良ヨリ緊急事項ニ付テハ殆ト総テ相談ヲ受ケ居ル如キモ衆人列座ノ場所ニ於テハ張作霖生存中ト異リ極メテ消極的ニ振舞ヒ好機運ノ転換シ来ル迄鋒鉈ヲ隠シ居ルモノノ如シト御参考迄

ノ委員ハ特ニ何等ノ意見ナク結局十日夜ノ保安会ハ劉哲ノ主張ノ如ク大体纏マリタルモノノ如シ而シテ九日夜ノ保安会ニハ楊宇霆モ特ニ出席シタルカ緘默シテ何等ノ意思表示ヲ為サス楊ハ先月帰奉以来学良ヨリ緊急事項ニ付テハ殆ト総テ相談ヲ受ケ居ル如キモ衆人列座ノ場所ニ於テハ張作霖生存中ト異リ極メテ消極的ニ振舞ヒ好機運ノ転換シ来ル迄鋒鉈ヲ隠シ居ルモノノ如シト御参考迄

依レハ楊ハ本官ヨリ別レタル後直ニ大帥府ニ到リ保安会ノ連中（楊宇霆、袁金鑑、張作相、劉尚清、常蔭槐、王樹幹、劉哲、呂栄寰）ニ委細報告シ協議ノ末結局学良ト劉哲十二日午後林大使安東ヨリノ帰奉ヲ俟チ表面大使カ老体來奉セル勞ヲ犒フ意味ニテ挨拶旁來訪シ保安会ノ決議ニ依ル当分妥協延期決定ノ通告ヲ為スコトニ打合セタキヲ以テ夫レ迄ハ絶対極振ニ付テハ追テ支那側ト打合セタキヲ以テ夫レ迄ハ絶対極秘ニ願ヒタシ為念

214 昭和3年8月12日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

林特派大使より帰国に際し南北妥協三ヶ月間  
中止の通告受理に関する張學良との会談報告

付記 八月十七日調

林大使張學良間の会談経過概要報告

奉天 8月12日後発  
本省 8月13日前着

\*  
第五一五号

林大使ヨリ

張學良ハ八月十二日午後五時本使ニ送別ノ辞ヲ述フル為ト称シテ來訪シ先ツ本使カ遠路父ノ葬式ニ参列シタルヲ謝シ明日「ステインショ」迄見送リ出来サルヲ以テ今日送別ノ辭ヲ述フル為ニ來レリト語リ更ニ語ヲ次イテ南北妥協ニ関シテハ劉哲ヨリ總領事ニ申入レアル通り兎ニ角三ヶ月間形勢觀望ヲ為ス事ニ決定シ南方ヨリ派遣セラレタル代表等モ既ニ帰還セリ尤モ今後南京へハ軍事行動監督等ノ必要モアルヲ以テ軍事委員等ヲ派遣スル事アルヘキ旨述ヘタリ依テ本使ハ右報告ヲ諒トシ政府ニ對シテハ總領事ヨリ電報スヘシ而シテ今後万事總領事ニ相談セラレ度シト述ヘ更ニ激励ノ辭ヲ加ヘ置キタリ

尚本件ニ關シ學良ニ對シ我方ヨリ青天白日旗掲揚阻止方ノ警告ヲ發セルコトハ政府ノ公表ノ内容如何ニ拘ハラス内外ノ知悉スル処ナルヲ以テ今直ニ妥協ヲ実現シ青天白日旗ヲ東三省ニ翻サシムルハ頗ル我体面ニ關スト思考シ訓令御依頼ノ趣旨ヲ稍々超越シタルノ嫌アルモ先日來學良トノ會見ニ於テ多少嚴肅ナル言句ヲ使用シ彼ヲシテ差當リ妥協ヲ思ヒ止マルニ至ラシメタル次第ナルニ付右御承知相成度シ

（付記）

（極秘）

林大使赴奉ニ關スル件

（昭和三年八月十七日調）

一、林大使ハ田中外務大臣ノ個人ノ代理及張ノ知合トシテ同男爵個人ノ資格ニテ故張作霖葬儀参列ノ為昭和三年七月二十八日東京発大連經由赴奉シ八月五日葬儀ニ参列ヲ了シ次テ八月八日九日及十二日張學良トノ間ニ滿州問題殊ニ妥協問題ニ關シ種々会談ヲナシタル上八月十三日奉天發安奉線經由帰朝ノ途ニツキ八月十六日着京セリ（尚林大使ハ八月十二日内田全權トモ安奉線車中ニテ会見シタリ）

二、右林大使張學良間ノ会談経過概要左ノ如シ

(一) 我方方針 田中外務大臣ハ林大使ニ對シ張學良ト会談ノ際同大臣ノ意図ヲ学良ニ伝達アラムコトヲ依頼シ林大使出發前滿蒙問題ニ關シ別紙第一号ノ通り内話シタルカ尚林大使出發後七月三十一日「クリエ」ヲシテ林總領事ニ對シ同日付同總領事宛吉田次官半公信ヲ携行奉天ニ赴カシメタリ右半公信ニ於テハ先ツ前記林大

使ニ對スル田中大臣内話ノ次第ヲ述ヘタル上更ニ林大使ヨリ張學良ニ申入ノ際ハ別紙第二号ノ趣旨ニ依ルコトト致度田中大臣ノ意見ナルニ付右ヲ同大使ニ提示ノ上充分打合アリタキコト及新聞記者等ノ質問ニ對シテハ「林大使ハ今回葬儀参列ヲ機トシ前顯別紙第二号末項即在奉天總領事ノミヲ日本側ノ代表者ト認ムル云々ノ件ヲ田中總理ノ伝言トシテ學良ニ伝ヘタルモノナリ」と説明スルコトトシ度キ處其ノ際我方ト學良側ノ発表ニ不一致ノ点アリテハ面白カラサルニ付右ニ關シ學良トモ予メ打合置アリタキコトノ二点ヲ申進シタリ

(二) 林大使張學良会談

(1) 第一回会談

八月八日午後四時林大使、林總領事及河野副領事ヲ伴ヒ学良ヲ訪問シ先ツ東三省ニ對スル帝國政府ノ方針ハ既ニ年アリ明治三十八年善後條約會議ノ際我全權ヨリ滿州ニ對スル治安維持施政改善ニ關スル條項ヲ提案シ當時支那側ノ希望ニ依リ特ニ之ヲ協定ニ入ルル事ヲ避ケ會議錄ニ止メタル事實（別紙第三号參照）モアル通リ爾來滿州ノ治安維持施政改善ヲ以テ

本ノ滿州ニ於ケル條約上ノ権利ヲ擁護スル必要アル  
コトモ充分認メ居ル次第ナルモ只妥協ニ関スル大勢  
ハ如何トモ動カシ難シト前日同様繰リ返シタリ依テ  
林總領事ヨリ日本ノ滿州ニ対スル方針ハ昨日既ニ林  
大使ヨリ申述ヘタル通り明治三十八年善後會議ニ於  
ケル東三省治安維持施政改善ニ関スル會議錄中ノ支  
那側声明ノ實行セラルル点ニアル処若シ南北妥協ノ  
結果例ヘハ現ニ南方ニテ宣言セル如キ條約廢棄ヲ実  
行セムカ日本ノ滿州ニ於ケル権益ハ蹂躪セラレ右声  
明ノ趣旨トモ相反シ憂慮スヘキ事態ヲ釀スヘキ旨述  
ヘタルニ学良ハ元來三民主義ハ亡父モ之ヲ謳歌シ居  
ル処ニテ排斥スヘキハ共產主義ノミナルヲ以テ此ノ  
三民主義ヲ奉スルハ敢テ父ノ遺訓ニ背クモノニ非ス  
ト述ヘタルニ依リ林大使ヨリ今回同大使ノ來奉ニ際  
シ田中總理ヨリ特ニ依頼セラレタル伝言ハ若シ父作  
霖存命セシナランニハ必スヤ眞ノ保境安民ニ還リ日  
ノ思フ所ヲ實行セシモノト考フルカ故ニ子タル学良  
本ト円満ナル關係ノ下ニ三省施政改善ヲ旨トシテ其  
ニ於テモ右父ノ遺訓ヲ体スヘク今日ノ如ク共產主義

帝国ノ責務ト深ク考ヘ居リ今尚変ル事無キ旨ヲ説キ  
タル後前顕別紙第二号ノ趣旨ニ基キ須ラク保境安民  
施政改善ヲ根本義トスヘク此ノ際早急ニ妥協ヲ促進  
スルカ如キハ父ノ遺訓ニモ背キ学良ノ為ニハ素ヨリ  
東三省乃至日本ノ為断シテ不可ナル所以ヲ嚴重ニ申  
入レタル処学良ハ默々トシテ之ヲ聴キタル後妥協問  
題ハ既ニ輿論ノ大勢動カシ難ク一方日本側ヨリ妥協  
ノ責任ヲ自分（学良）ニ帰セントスルカ如キ態度ヲ  
取ラレ甚々苦境ニ陥リ到底此ノ儘ニシ難キ立場ニア  
リト述ヘタル処右最後ノ点ハ曩ニ学良カ林総領事ニ  
対シテモ述ヘタル処ナルヲ以テ之ニ対シテハ林総領  
事ヨリ当方訓令ノ趣旨ニヨリ右ハ学良ニ権威ツケム  
力為殊更ニ其ノ自発的行為ナルコトヲ世間ニ発表セ  
ル次第ナル旨ヲ説明シタル上現ニ去ル七月二十四日  
総司令ノ命ニ依リ王家楨來訪ノ節モ妥協問題ハ自発  
的ニ打切りタリト言明セシニアラスヤト付加ヘタル  
ニ学良ハ日本ノ真意ハ兎モ角結果ニ於テハ甚々苦シ  
キ立場ニ立至レリト愚痴ヲ述ヘ仮ニ林大使ニ於テ自

(口)第二回会談

ハ右ニ対シ若シ同大使学良ノ立場ニ立タハ断シテ妥協セサルヘク兎モ角此ノ際妥協白日旗掲揚ノ絶対不可ナルヲ更ニ強調セル処学良ハ最後ノ決心ハ更ニ明九日領事館訪問ノ上申上クヘシト答ヘ右ニテ会談ヲ打切り晩餐ヲ共ニシタル後帰館セリ

尚右会見内容ニ関シ差当リ新聞記者ニ対シテハ支那側トモ打合セノ上予定ノ通「林大使ハ今回ノ葬儀参列ヲ機トシ学良ニ会見シ林総領事ノミヲ日本側代表者ト認ム云々ノ総理ノ伝言ヲ伝ヘ終リテ便飯ヲ共ニシ帰レル」旨ヲ発表セリ

第二回会談

八月九日午前十時張学良ハ王家楨ヲ伴ヒ帝国總領事館ニ林大使ヲ來訪シ昨日ノ答礼ニ来レリト前提ノ上妥協問題ニ關シテハ同日保安会ニテ袁金鎧議長ノ下ニ討議中ニテ其ノ結果如何ハ未タ知リ難キモ一方方本仁ハ国民政府ノ代表トシテ本問題商議ノ為來奉シ居レル処学良ノ意見トシテハ仮令妥協成立スルモ保境安民ノ根本精神ニ於テハ変ルコト無ク且是カ為日本ニ迷惑ヲ掛クルコト絶対ニ無シト思考シ居リ又日本ニ混同セル三民主義ヲ奉スルカ如キ抑モ誤ニテ或ハ外形ノミヲ採リテ実ヲ採ラスト云フモ斯カルコトハ事実不可能ナルニ依リ宜シク現状ノ儘形勢觀望ノ態度ヲ持スヘキ点ニアリ唯斯ク云ヘハトテ日本政府トシテハ東三省ヲ独立セシメ之ヲ思フ儘ニセントスルトカ或ハ領土的野心ヲ抱懷スルカ如キ意志ハ毫モ無キ旨ヲ繰返シ断言シ置クヘシト申聞ケタル処学良ハ元来自分個人トシテハ三民主義青天白日旗ニハ賛成シ居ラサルモ大勢止ミ難シト又復繰返セルニ依リ更ニ林大使ヨリ昨日來大勢既ニ云々口ニセラルルモ大勢ハ総司令自ラ作ルヘク誤レル濁流ニ対シテハ宜シク総司令ノ威信ト威力トヲ以テ彈圧スルカ可ナルヘシト強ク含メタルモ学良ハ父トノ威力ノ相違アルヲ啣チ殊ニ過般妥協中止カ自発的ニ出タリトノ日本側声明ノ為益々苦境ニ陥リ本日保安會討議ノ結果如何ニ依リテハ下野スル外ナシト愚痴ヲ零シタルヲ以テ更ニ林総領事ヨリ総司令ノ意ニ反スル決議ノ如キハ斷然拒絶スヘク日本亦之ニ対シ援助ヲ惜マサルヘシ然レ共若シ我勸告ニ反シ乱暴ナル南方ト妥協ヲ成

立セシムル如キ事アランカ我既得権利利益ヲ擁護ス

ル為必要ナル行動ヲ執ルノ止ムナキニ至ルヘキニ付

是等ノ結果ニ付テハ予メ充分慎重考慮ノ要アルヘシ

ト力説セルカ結局学良ハ妥協中止ニ対スル最後ノ決

定ヲ述ヘル事無ク右会見ノ趣旨ヲ直ニ開会中ノ保安

会ノ討議ニ付シ其ノ決議ヲ待ツヘキヲ述ヘ会見約二

時間余ニシテ引取リタリ

而シテ右会談事項ハ学良ヨリ直ニ保安会へ報告スル

筈ノ由ニ付学良ト打合ノ上新聞社側ニ対シテハ「学

良ハ林大使ニ対シ答礼ノ為來リタルモノナルモ談

偶々妥協問題ニ入レルヲ以テ林大使ヨリ此ノ際急速

ナル妥協ハ東三省ノ為面白カラス暫ク形勢觀望ノ態

度ヲ取ルヘキ旨述ヘラレタルニ対シ学良ヨリハ明確

ナル答弁ナク右ニ付テハ本日ノ保安会ニ付議スヘキ

旨語レルモノナリ」トノ意味ヲ在奉天總領事館ヨリ

発表シタリ

(イ) 妥協問題ニ關スル支那側要人ノ態度

本件妥協問題ニ關スル支那側殊ニ保安会委員協議ノ

内幕ニ付テ劉哲及楊策等ノ在奉天總領事館員ニ対ス

(ロ) 支那側ノ林總領事ニ對スル内協議

(a) 王樹幹ハ囊ニ東三省代表トシテ北京ニ赴キシ以前

ハ熱心ナル非妥協論者ナリシモ北京ニ於テ南方派

ヨリ説カレ最熱心ナル妥協論者ニ変化シ帰奉以來

日本ノ勸告ヲ聞クハ是レ東三省カ日本ノ保護領タ

ルコトヲ認ムルモノナリトノ論ヲ高調シ保安会委員ノ多數ハ之ニ順応スルノ外ナカリンカ八月十日

午後劉哲等ヨリ日本カ強硬政策ヲ執リ三省ニ紛糾ヲ釀ス場合ニ王ハ果シテ責任ヲ負フヘキヤヲ問ハ

レ漸次軟化スルニ至レルカ如シ

(b) 張作相ハ吉林ニ関スル事項及軍事以外ニハ滅多ニ

發言セス

(c) 常蔭槐ハ奉天ハ兎ニ角黒龍江ハ白日旗ヲ掲揚シテ

差支ナカルヘキ旨ヲ主張シタルモ容レラレス

(d) 他ノ委員ハ特ニ何等ノ意見ナク結局十日夜ノ保安会ハ劉哲ノ主張ノ如ク大体纏マリタルモノノ如シ

而シテ九日夜ノ保安会ニハ楊宇霆モ特ニ出席シタ

ルカ緘默シテ何等ノ意思表示ヲ為ササリシカ如シ

八月十日午前楊策、劉哲ノ両名ハ張學良代理トシテ林總領事ヲ來訪シ九日夜ノ保安会ニテハ南北妥協ノ已ムヲ得サルコトヲ決議シ但シ何日ヨリ青天白日旗ヲ掲クルヤ又黒龍江吉林ト順次掲揚スルヤハ未タ決定セスト告ケタルカ尚劉哲ハ日支間ノ險惡ナル空氣ヲ一掃セムコトヲ希望ストテ同日午後更ニ同總領事ヲ來訪シ保安会委員ノ資格ヲ用ヒ斯友人トシテ談話シ度シト前置シテ南北妥協問題ニ談及シ東三省ニ於ケル日支ノ関係ヲ今日以上ニ険惡ナラシムルハ両国ノ為ニ不幸千万ナルヲ以テ目下ノ妥協問題ニ關シ日本ノ意向ヲモ無視セス同時ニ南方ヨリモ苦シメラレサル何等カノ良策無キヤト質問セルニ依リ林總領事ハ我方ニ於テハ南方カ滿州ニ侵入スルカ如キ場合ニハ棄テ置カサルノ決心アリ只南方ノ形勢如何ニ変化スルヤ明カナラス果シテ統一ヲ完成スルヤ頗ル疑ハシキヲ以テ形勢觀望ヲ勧告シタル次第ナリ毫モ永久ニ統一ヲ邪魔スルカ如キ意思ヲ有セサルナリト述ヘタルニ劉ハ然ラハ一定ノ期限ヲ付シテ妥協ヲ許ス事ハ如何ニヤ例ヘハ三個月ヲ期限トシ此ノ期限経過後

ハ妥協ヲ許ス事トシ外部ニハ發表セス南方ニ対シテハ其ノ意味ニテ引張ラハ其ノ間ニハ南方ノ形勢變化シ或ハ妥協ノ必要無クナルヤモ知レスト申出タセルニ依リ林總領事ヨリ右三個月ノ期限ハ学良及保安会ノ諒解ヲ得タルモノナリヤト反問セル處劉ハ未タ保安会及学良ノ同意ヲ経居ラス然レトモ八九分ハ彼等ノ同意ヲ得ル自信アリ總領事ニ於テ同意ナラハ今夜直ニ保安会ヲ召集シ何分ノ儀明朝報告スヘシト述ヘタルニ付林總領事ハ学良及保安会ニシテ右様ノ態度ヲ採ル事ニ決セハ政府ニ報告シテ訓令ヲ請フノ勞ヲ取ル事ヲ辞セサルヘキ旨ヲ告ケタリ

然ルニ翌八月十一日楊策ハ劉哲ノ代理トシテ林總領事ヲ來訪シ十日夜保安会ニテ協議ノ結果兎モ角今後三個月間形勢觀望ノコトニ議纏リタル旨並ニ同日学良及劉哲同列ニテ右ニ關シ本官ニ何分ノ挨拶ニ來ルヘキ旨申来レルカ同日正午楊策再ヒ林總領事ヲ來訪シ妥協延期決定通告ノ件ニ關シ林總領事ヨリ学良訪問ヲ希望シタルヲ以テ同總領事之ヲ拒絶シ学良ヨリ來訪スヘキ旨申聞ケタルニ楊策ハ直ニ大帥府ニ到リ

ル談話ヲ綜合スルニ



217 昭和3年8月13日 在奉天林總領事宛（電報）

田中外務大臣より  
在奉天林總領事宛（電報）

南方との妥協見合せに満足なる旨張学良に申

入れ方訓令

本省 8月13日後発

\*第一六一號

張学良ニ対シ本大臣ノ伝言トシテ左ノ如ク申入レラレタシ

今回總司令ニ於テ南方トノ妥協ヲ一応見合サルルニ至リタ

ルハ本大臣ノ誠ニ満足トスル所ナリ元来南方ハ政権ノ帰趨未タ定マラス全体会議ノ形勢モ御承知ノ通リニシテ蔣介石ト雖モ何時汪兆銘等ト握手ノ止ムナキニ至ルヤモ知レス

即チ共産主義的色彩ノ益々濃厚ナラントスルヤモ図ラレサル情勢ニ在リ今回總司令ノ妥協見合ハ先考張大帥ニ於テモ地下ニ於テ之ヲ満足セラルヘク而シテ現下ノ形勢ハ東三省取リテノミナラス張家自身ニ取りテ極メテ重大ナルモノアリ此ノ時期ニ於テ總司令タルモノ須ラク非常ノ決心ト英断トヲ以テ此ノ時局ニ善処スルノ覚悟ヲ要スヘシ幸ニ自重シテ先人ノ偉業ヲ墮ササラントコトヲ故大帥生前ノ知友トシテ切望ス

218 昭和3年8月16日 在南京岡本領事より

田中外務大臣宛（電報）

東三省青天白日旗掲揚後においても我が國の

利害を無視せずとの蔣介石の談話について

南京 8月16日後着

本省 8月16日後着

\*第三八三號

予テ会見ヲ申入レ置キタル蔣介石ハ本十五日朝南京市長劉紀文ヲシテ本官ヲ迎ヘシメ開会式出席前約一時間諸問題ニ付談話ヲ交ヘタルカ同氏ハ頗ル上氣嫌ニテ大要左ノ通意見ヲ開陳セリ

兩國間ニ不幸ナル諸問題引続キ起リ国交上憂慮ニ堪ヘサルモ自分ハ必スシモ悲觀セス結局相提携セサルヘカラサル日支両國ハ枝葉末節ニ因ルルコト無ク各事件ハ事件トシテ解決ニ努力シ依テ大局ニ累ヲ及ホササル様努メサルヘカラス貴説ノ如ク支那ノ欲スル処ハ平等條約ノ締結ニアリテ不平等條約ノ廢棄ノミカ目的ニ非ス当初外交部長ノ発シタル通告ニハ異見無キニ非サリシモ既ニ事效ニ至ル以上出来得レ

ハ兩者ノ面目ヲ適當ニ立テ改訂商議開始ニ付乍不及努力シ度シ

東三省問題ニ関シテハ曩ニ北伐出征前貴官ト自分及各部長ト会見當時ヲ想起セルカ最近新聞紙上ニ伝ヘラルルカ如ク

貴國カ同地方ニ於テ領土的野心ヲ有セサル以上貴國特殊ノ權益ハ我等ノ認ムル処ニシテ張学良トハ充分ノ連絡アリ近

ク青天白日旗ヲ東三省ニ翻ヘスニ至ル場合ト雖モ固ヨリ貴

國ノ利害ヲ無視スルモノニ非ス唯謠言甚シキニ至ラハ延テ不祥事ヲ惹起セストモ限ラレス出来得レハ本問題ニ付テモ他ノ諸問題ト別個ニ貴國ト商議ヲ開始シ度シ

貴我両國間ニ於テハ所謂外交辞令ヲ用フルコトナク實際ニ照シテ誠心誠意問題解決ヲ計リタキモノナリ

尚矢田總領事近ク帰朝サルル趣ナル處自分モ会見終了セシコト故明十六日上海ヲ経テ杭州方面ニ赴クヘキニ付会見

篤ト御話致ス方可ナラスヤ云々  
尚本官ノ問ニ対シ各部長ハ当分変動無ク特ニ財政部長ニハス

引続キ其ノ計画ヲ実行セシメ度シト語レリ

奉天ニ転電セリ

220 昭和3年8月18日 在奉天林総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

## 楊宇霆に対する現地日本側の態度二分につき

## 政府の方針請訓

奉天 発

本省 8月18日後着

## 第五二七号（極秘）

楊宇霆問題ニ当地一般ノ空氣ハ最近帰朝ノ佐藤少将ヨリ委細御聽取ノコトト存セラルル處目下当地居留我官民ニハ反楊援楊二派アリ前者ハ主ニ我軍部及所謂全滿日本人大会委員ノ連中及滿鉄幹部ノ一部ニテ後者ハ何レカト云ハハ從來比較的楊ニ接近ゼン連中例ヘハ松井顧問松井大佐（兵工廠）河野久太郎、江藤及赤塚代議士等ニテ反楊派ノ主張スル処ハ

(一)楊ノ態度ハ閔内ニ野心アリ彼存在スル限り真ノ保境安民期待スヘカラス  
(二)彼ハ民衆煽動排日家タルト共ニ南北妥協ニ依ル対日牽制主張家タリ從テ彼今後三省ニ勢力ヲ扶植セハ我對滿政策遂行愈困難タルヘク

ナルカ

茲ニ最懸念セラルルハ一楊問題ノ為ニ内部的結束ノ乱ルル事無キヤノ点ニテ現ニ十七日楊ノ本官來訪ニ対シテモ援楊

派ノ術中ニ陥ル無キ様注意シ吳ルル者アルカ如キ有様ニテ今後反楊熱ノ高マルニ從ヒ種々不快ナル内部的空氣釀成セラリストモ限ラス從テ此ノ際成ルヘク楊問題ニ対スル我方ノ態度ヲ速ニ帰一セシムル事極メテ必要ノ事ト思考シ居リ

卑見ニ依レハ即ニ反楊空氣相当表面化シ居ル今日俄ニ援楊的態度ヲ示スハ却テ我足下ヲ見透サル嫌アリ去リトテ良ト楊トノ関係ハ目下ノ處可成密接ナルモノアリテ故意ニ之ヲ割カムトスル如キ事ハ容易ノ業ニ非サル故出来得レハ彼ヲ暫ク東三省ヨリ遠サクル事無難ノ策ト存セラルルモ之亦今ノ處可能性ニ乏シ從テ甚タ不徹底ノ感ハアルモ我ヨリ進ンテ彼ニ近寄ルカ如キ態度ヲ示サス彼自ラ反省シテ我ニ聴從シ来ルヲ待ツ事トシ彼ヲシテ再ヒ從来ノ如キ我對滿策ニ妨害ヲ加フル事無カラシムル様監視ヲ怠ラサル態度ヲ取ルト云フ外無キヤニ思考ス何レニセヨ目下ノ状況ニ顧ミ此ノ際政府トシテ何等カノ御方針ニ依リ出先ニ対シ確ト御訓令アラム事ト希望ス

(三)又奉天派内部ニモ反楊側<sup>(マ)</sup>多ク彼ノ擡頭ハ三省分裂ノ惧アリ

(一)彼ハ意ノ排日ニ非ス日本ト提携セサレハ何事モ為シ得サルヲ承知セリ

(二)彼ノ勢力ヲ利用シテコソ初メテ我懸案解決ノ可能性アリ(三)仮ニ彼ヲ排除セントスルモ其ノ方法ナン而モ彼ヲ倒サハ学良倒レン

等ニ在リ右両論ハ何レモ根拠無キニ非サル處昨今ノ状勢ハ何レカト云ヘハ反楊熱一般ニ濃厚トナリツツアル為援楊派ハ幾分遠慮氣味ニテ楊ヲ初メ支那側モ我方ノ空氣ヲ察知シ居リ中ニハ此ノ間ノ消息ヲ利用シテ殊更反楊熱ヲ扇動セントスル形跡スラ無キニ非ス旁々楊モ松井ニ対シ斯ル空氣ノ中ニ在ルヲ甚タ不愉快トシ居ル旨漏シタル由ナリ惟フニ我滿州ニ於ケル地位及対策遂行カ一楊ノ有無ニ左右セラルヘキ筋合ノモノニ非サルハ論無キヲ以テ敢テ反楊援楊ニ拘泥スル要無シト信シ居ルヲ以テ過般軍司令官トノ会談ノ際ニモ本官ハ自然ノ方法ニ依リ楊ヲ退クルハ異論無キモ無理ナル方法ニ依リ之ヲ排斥スルハ取ラサル旨述ヘ置キタル次第

221 昭和3年8月23日 在奉天林総領事宛（電報）

日本政府は張學良を支持し彼を中心として政

策を遂行する方針である旨訓令

本省 8月23日後6時5分発

## 第一七四号

貴電第五二七号ニ関シ

政府ハ張學良ヲ支持シ彼ニ十分ノ安心ヲ得セシメ彼ヲ中心トシテ我政策ヲ遂行スル方針ナリ故ニ楊宇霆カ例ヘハ學良ヲ排斥スルカ如キコトヲ企ツレハ阻止スヘクサル事實ノ未タ顯然タラサル今日我ヨリ進ンテ楊ヲ排斥シ若クハ援助セムトスルハ面白カラス暫ラク問題外ニ置クノ態度ヲ持スルコト必要ナルニ付出先官憲ニ於テ右ノ趣旨ニ依リ遺算ナキ様適宜御措置アリタシ

222 昭和3年9月7日 在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛（電報）

南北妥協問題に関する国民政府要人等の態度

について

\* 第四三二号  
南北妥協問題ニ関シ軍人及中央党部方面ニ於テハ日本ノ對奉警告ヲ以テ内政干渉ナリトシ排日思想ノ宣伝ニ努メ居ルト共ニ旁主ナル政府要人ハ必スシモ伝ヘラルカ如キ日本ノ野心ヲ信セス又日本ニ於テ不徹底ナル干渉ヲ為スモ事態ハ当然其ノ帰着スヘキ点ニ帰着スヘシトテ頗ル冷静ナル態度ヲ示シツツアルハ累次電報ノ通リナリ而シテ邢士廉着滬

以来各要人等ト往来シ次テ數日前來寧譚延闊其ノ他トノ間ニ南北妥協ノ確定的条件ニ付打合ヲ了セリトハ二、三要人ノ本官ニ語リタル処ナルカ昨六日來訪セル交通部趙世瑄ノ談ニ依レハ同日邢士廉ハ王交通部長以下ノ同部當局ト會見諸鉄道ニ關スル諸般ノ打合ヲ為シタルカ其ノ意見頗ル公正ニシテ決シテ日本ノ既得権利ヲ妨害スルカ如キ言辭ヲ述ヘサリシ趣ナリ

尚其節日本ノ張宗昌援助ニ関連シ日本ハ同人ニ對シ一千万円ノ借款ヲ与ヘ之カ代償トシテ膠濟鐵道ヲ我有ニ帰セムコ

問題ニ付テハ若シ青天白日旗ヲ滿州ニ掲ケラル時ハ共產系ノ活動盛トナリ露國ノ勢力モ東三省ニ及フ虞アルカ故ニ日本ニ於テ之ヲ懸念スルハ無理ナラサルニ付現在黨員ノ同省ニ入ルヲ差止メ先ツ北京ニ黨務學校ヲ設立シ黨員ノ訓練ヲ為シ右訓練ヲ終リタル黨員ヲ東三省ニ派遣スルニ於テハ然シタル乱暴ヲ為スコトナカルヘク

又東三省ノ政治組織ニ付テハ白カ東三省政治分会主席ニ就職シ其ノ下ニ奉天、吉林、黑龍江各省府ヲ置キ奉天主席ニハ張學良黒龍江ハ楊宇霆トシ吉林省ハ只今ノ處未定ナルカ本政治組織成立後ハ現在ノ政治組織ハ廢止スル筈ナリ次ニ第二ノ二十一ヶ条問題ハ何分全國民ノ不満ヲ買ヒ居ルカ故ニ多少修正ヲ希望スル次第ナルカ右ハ南京政府ト日本政府トノ交渉ニ俟ツヘク只是ト同時ニ日本政府ト白トノ間ニ秘密ニ軍事協定ヲ結ヒ国防、鐵道、經濟等ノ諸問題ヲ含マシメ度キ考ナリ尚右二案ハ白ト王ト自分トノ三人力協議ノ上作リタルモノニテ其ノ他ノモノハ之ニ与ラスト述ヘ右ニ対スル本使ノ意見ヲ叩キタルニ付本使ハ右第一ノ国旗揚問題ニ付テハ日本政府ハ右問題ノ起リタル當時南京政府カ通商條約ヲ一方的ニ廢セル遺ロニ顧ミ東三省ニ於ケル日

南京 9月7日前發  
本省 9月7日後着

トノ報道アリ而カモ右ハ相當信賴スヘキ筋ヨリノ情報ナリ  
トテ頗ル憂慮シ居リタルヲ以テ本官ハ在支公使宛貴電御來示ノ趣旨ニ基キ其ノ断シテ真ナラサル事ヲ説明シ置ケリ

223 昭和3年10月(10)日 在中國芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

白崇禧使者を通じ會見申出ならびに東三省易轍などに対する日本の内意打診について

北京 10月10日後着  
本省 10月10日後着

\* 第一四〇三号  
十月八日白崇禧參謀長王澤民本使ヲ來訪シ白ノ依頼ナリトテ白ハ本使ノ帰朝前會見シタキ旨申出テタルヲ以テ本使ハ十八日ノ出発ヲ十七日ニ繰上ケ天津ニ於テ會見スヘキ旨答へ置キタル処九日饒孟任來訪シ白ノ本使ニ會見シタキ理由ニ言及シ白ハ張學良ヨリ屢々會見方ノ申込ヲ受ケ居レルカ白トンテハ先ツ本使ト會見シテ第一、東三省ニ於ケル國旗問題並ニ同省ノ政治組織第二、二十一ヶ条問題ニ付本使ノ意向ヲ聽キタル上張學良ニ會見シタキ希望ナルカ右第一ノ

林總領事カ張學良ノ質問ニ応シテ答ヘタル次第ヲ程良ク説明シ次テ政治組織ノ変更ニ付テハ事態極メテ重大ナルニ顧ミ仮令本使ノ個人的意見トシテモ何等言及シ難ク篤ト考慮ヲ要ス第二ノ二十一箇条問題ニ付テハ支那ニ於テ不人氣ナルハ本使モ承知セル処ナルカ苟モ條約ノ改正トナレハ事柄極メテ重大ナルカ故ニ只今意見ヲ表示シ難シ若シ夫レ軍事協定ノ締結ニ至リテハ其ノ内容ハ貴下ニ於テモ詳細承知シ居ラサル位ナレハ本使トシテモ可否得失ヲ述ヘ難シト答ヘタル處饒ハ御意見ノ次第ハ勿論天津ニ於ケル白トノ御會見ノ際述ヘラル事トセラレ差支ナキモ白トノ會見ニ於テ全部不同意ヲ表示セラル事トモナラハ白ハ面目ヲ失ヒ甚タ面白カラサル立場ニ立ツヘキニ付白ト御會見前ニ一応自分ニ内意ヲ洩ラシ貰ヒ度ク然ル上ハ直ニ湯山ニ赴キ白ニ委細ヲ伝フルコトト致度シト述ヘ再度會見方切望シタルニ付十五日來訪方申聞ケ置キタリ



致度シト述ヘシニ饒ハ決シテ右ノ如ク誤解スルコト無シ又第二点ノ二十一個条ノ御話モ良ク了解セルカ支那トシテ二十一個条ヲ直ニ改正シテ貰フ意向ニ非ス只白總指揮トシテハ先般出陣ニ當リ貴公使ヨリ非常ナル好意（以下脱問合中六語）紛糾モ起ササリシカ故ニ非常ニ感謝シ日本側ニ於テハ何等自分ヲ疎外スルモノニ非ス日本トハ虚心坦懐ニ提携シ得ヘク

從テ今後自分カ満州ノ首脳者トナル場合ニ日本ト堅ク提携シ得可ク又提携スルヲ良策ト認メ更ニ進ンテ軍事協定ヲ締結シタキ積リナリ但シ軍事協定ヲ締結スル以上ハ日本側ヨリ白ニ対シ何等カノ代償ヲ与フルコトハ白ノ面目上將又國內ニ対スル立場ヲ良クスル上ヨリ最モ望マシキカ必スシモ二十一箇条ノ修正ヲ意味スルニ非ス然ラハ軍事協定ハ如何ト云フニ主タル目的ハ国防並ニ經濟ノ發展ニシテ国防ニ付テハ新疆、外蒙古、北滿等ニ於テ主トシテ露國ノ侵略ヲ防ク意味ニテ日本側ノ助力ヲ得度キ所存ナルカ是独リ支那ノ懸念スル処タルノミナラス日本ニ於テモ亦考慮セサルヘカラサル処ナルカ故ニ日本ト共同シテ講究シタキ考ナリ又經濟ノ開発トハ満州ニ於ケル鐵道敷設及合弁事業並産業ノ開

225 昭和3年10月17日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛（電報）  
我が方の勢力を利用して満州への進展を計ろ  
往電第一四三五号及往電第一四三六号ニ関シ

第一四三七号  
往電第一四三五号  
本省 10月17日前着  
北京 発

#### うとする白崇禧の底意について

テハ新疆、外蒙古、北滿等ニ於テ主トシテ露國ノ侵略ヲ防ク意味ニテ日本側ノ助力ヲ得度キ所存ナルカ是独リ支那ノ懸念スル処タルノミナラス日本ニ於テモ亦考慮セサルヘカラサル処ナルカ故ニ日本ト共同シテ講究シタキ考ナリ又經濟ノ開発トハ満州ニ於ケル鐵道敷設及合弁事業並産業ノ開

饒孟任ノ会談ハ果シテ全部白崇禧ノ真意ヲ代表スルモノナリヤ否ヤ明カラサルモ白ハ予テヨリ満州ニ地盤ヲ得ム事ヲ焦慮シ居ルカ故ニ我方ニ接近シ我方ノ勢力ヲ利用シテ満

発ニ付日本側ト共同シテ遣リ度キ意向ナリ何レ天津ニ於テ白ト御面会ノ節ハ白ヨリ口頭ニテ委細申上ケ或ハ場合ニ依リ書面ヲ出タスヤモ知レスト述ヘシ故本使ハ右ノ如キ内容ノ軍事協定ニ對スル日本政府ノ意向ハ承知セサルモ自分一己ノ考ヲ以テスレハ其ノ細目ハサテ措キ其ノ趣旨ハ真ニ結構ナルモノナリト云ヘルニ饒ハ満足ノ意ヲ表シ右会談ノ次第ハ早速白ニ報告スヘシトテ辞去シタリ

州ヘノ進展ヲ計ラムトスル底意ナルハ右饒ノ口吻ニ依リ察知シ得ルカ我方トシテハ只今満州ニ奉天派以外ノ勢力ヲ入

#### 談について

レテ満州問題ヲ紛糾セシムルカ如キハ断シテ許ス可カラサ

ルハ申ス迄モ無キ処ナルモ白等ノ広西派ハ馮玉祥派ト共ニ国民政府内ノ二大勢力ニシテ国民政府ト雖モ之ヲ無視シ得

サル状態ニテ我方トシテハ此ノ後方ト諸懸案ノ交渉ニ当リテハ此ノ二大勢力ヲ無視シ能ハサルハ勿論進ンテ之ヲ利用スル必要アルヘク殊ニ最近ノ形勢ハ北支ハ勿論満州問題ニ付テモ益々南方ノ勢力ヲ無視シ得サル傾向現ハレタルニ付テハ益々其ノ必要アルヘク本使ハ右ノ趣旨ニ基キテ白等ニ応酬シ居ル次第ニテ目下奉天ニ於ケル交渉ニハ何等触レルシタルニ何ハ本使トノ会見ニ於テ非常ナル満足ノ意ヲ表シ辞去シタルカ何レ北京ノ状勢ニ付馮玉祥ニ報告スル所アルヘキカト察セラル右御含ミ迄

~~~~~

226 昭和3年10月24日 在中国芳沢公使より

田中外務大臣宛（電報）

テ腹案アル次第ナリヤ若シ腹案アルニ於テハ之ヲ承知シ度又国旗問題ハ當時南京政府カ神聖ナル条約ヲ一方的ニ廢棄スルカ如キ暴挙ニ出テタルカ為メ如此乱暴ナル遺口ヲ我重大ナル権益ノ存在スル滿州ニ於テ行フコトヲ黙過スルニ於テ我権益ヲシテ根底ヨリ覆サシムルニ至ルヘシトノ懸念ヨリ差当リ国旗掲揚ヲ見合サシメタルモノニシテ二十一ヶ条問題ニ付テハ大正四年ノ提案ハ二十一ヶ条ナリシモ出来上タル条約ハ二十一ヶ条ニ非ルノミナラス華府會議ノ際重要個条三件ヲ放棄シタルカ為メ今日ニ於テハ提案當時ノ二十一ヶ条トハ非常ナル相違アル旨ノ趣旨ヲ説キタル處ニシテ白ハ共産主義ノ侵入ニ対スル対抗策トシテ日支共同スルコトハ自分ニ於テ切望スル処ナルモ具体案ハ篤ト政府ト協議ノ上決定スヘキモノニシテ自分ヨリハ何レ政府ニ上申シテ其考慮ヲ求ムヘキニ依リ貴公使ニ於テモ日本政府ノ考慮ヲ求メラレ度經濟提携ニ付テモ具体案ハ政府ノ決定スヘキモノナリ国旗問題ニ付テハ我國民ハ深ク之ヲ遺憾トセリト説キタリ

十八日午前九時白來訪昨日ノ談話ヲ継続ス白ハ共産主義ノ侵入防禦ノ為メ再ヒ東北西北両邊境地方ニ於ケル国防ノ必至リタルモノナルカ共産黨トハ過去ニ於テ如此關係アリタル為今日ニ於テモ共産党的遺口ノ残存スルモノアルコトハ貴説ノ通りナリ是故ニ自分等ハ外辺疆ノ国防ヲ嚴ニシ内清党ニ努メ度シト考ヘ居ル次第ナリト説明シタルニ付本使ハ御趣旨ハ甚結構ナルカ然ラハ辺疆ニ於ケル日支共同国防ノ具体案如何ト尋ネタル処白ハ日支共同国防ノ趣旨ニ於テハ自分ノ私見ヲ申上ケタル次第ナルモ之カ具体案ヲ貴公使ニ提出スルコトハ政府ト協議ノ上ニ非サレハ實行スルコト能ハス蔣介石ハ国防會議ノ主席ニシテ国防ニ付自分ト協議スル為中央ヨリ派遣セラレタルモノナルカ国防問題ニ付テモ勿論陳ニ自分ノ意見ヲ述ヘ彼ヲシテ中央ニ伝達セシメ度所存ナルニ付テハ貴公使ニ於テモ日本政府ニ御協議アラムコトヲ希望ス政治問題ニ付テハ自分ハ現在ノ北平ニ於ケル政治組織ノ如ク軍事政治党部ノ三者カ各々独立分離スルカ如キ組織ヲ不可トスル者ニシテ此三者カ各々独立分離スルカ故今回ノ

要ヲ説キ右ハ日本ノ為ニモ重要ナリト述ヘタルニ付本使ハ実ハ貴下トハ昵懇ノ間柄トナリタルニ付腹藏ナク申上ケンニ日本朝野ノ間ニハ支那国民党ヲ以テ第三國際ト殆ト同一視セル向少カラス右ハ国民党側ニテハ冤罪ナリト言ハソモリ差當リ国旗掲揚ヲ見合サシメタルモ尚其ノ所為ニ於テ從前ト類似問題ニ付テハ大正四年ノ提案ハ二十一ヶ条ナリシモ出来上タル条約ハ二十一ヶ条ニ非ルノミナラス華府會議ノ際重要個条三件ヲ放棄シタルカ為メ今日ニ於テハ提案當時ノ二十一ヶ条トハ非常ナル相違アル旨ノ趣旨ヲ説キタル處ニシテ白ハ共産主義ノ侵入ニ対スル対抗策トシテ日支共同スルコトハ自分ニ於テ切望スル処ナルモ具体案ハ篤ト政府ト協議ノ上決定スヘキモノニシテ自分ヨリハ何レ政府ニ上申シテ其考慮ヲ求ムヘキニ依リ貴公使ニ於テモ日本政府ノ考慮ヲ求メラレ度經濟提携ニ付テモ具体案ハ政府ノ決定スヘキモノナリ国旗問題ニ付テハ我國民ハ深ク之ヲ遺憾トセリト説キタリ

十八日午前九時白來訪昨日ノ談話ヲ継続ス白ハ共産主義ノ侵入防禦ノ為メ再ヒ東北西北両邊境地方ニ於ケル国防ノ必至リタルモノナルカ共産黨トハ過去ニ於テ如此關係アリタル為今日ニ於テモ共産党的遺口ニ異ナラス日本カ奉天ニ於ケル国民党問題ニ付彼ノ如キ態度ヲ執リタルハ條約廢棄ノ暴挙ヲ初メ如キ北平市党部カ工会ヲ煽動シテ種々陰險ナル手段ヲ弄スル所全ク共産党ノ遣口ニ恐ニ恐ヲ為シタルニ因ルモノナリノ遣口ニ於テモ亦甚タ相近似セリ現ニ北京順天時報事件ノ如キ北平市党部カ工会ヲ煽動シテ種々陰險ナル手段ヲ弄スル所全ク共産党ノ共産党的遺口ニ恐ニ恐ヲ為シタルニ因ルモノナリト述ヘタル処白ハ民国十三年故孫總理カ広西桂林ニ兵ヲ挙げタル節露国ト結ヒ共産党ノ組織及ヒ活動方法ニ倣フ代償トシテ兵器彈薬其他ノ助力ヲ受クルコトナリ爾來露國ノ援助ヲ受ケタルモノナルカ其後国民党内ニ於ケル共産党ノケタル節露国ト結ヒ共産党ノ組織及ヒ活動方法ニ倣フ代償トシテ兵器彈薬其他ノ助力ヲ受クルコトナリ爾來露國ノ援助ヲ受ケタルモノナルカ其後国民党内ニ於ケル共産党ノ

順天時報問題ノ如キ事件ヲ發生スル次第ナリ是故ニ自分ハ東三省ノ政治組織ハ右三者ヲ打テ一丸ト為シ政治ノ首腦ノ下ニ統一スルヲ得策ト信ス張學良楊宇霆等ハ此統一セル政治組織ノ下ニ活動セシムヘキナリ東三省ニ於ケル經濟開発ニ付テモ鐵道鉛山等開發スヘキモノ多々アルモ是等事業ハ日支提携ニシテ開發スルコト望マシク但シ支那側ノミニ片務的ニ非スシテ日支相互的ナルヲ可トス而シテ之カ具体案トシテハ政府ト協議ノ上ニ非サレハ申上ケ難シ要ハ日支ノ國交ヲシテ速ニ常軌ニ復スレハ日本ノ資本家トノ話ノ如キハ容易ニ纏マルヘシト述ヘタルニ付本使ハ東三省ノ政治組織ニシテ仮ニ貴下ノ如ク変更サルルモノトセハ貴下ハ主席ニ就任セラルルモノト思ハルルカ如何ト揶揄シタルニ白ハ笑ツテ中央ノ命令次第ナリ今ヤ軍閥打破ト清党ニハ大体成功シタルカ故次ノ問題ハ国防ナリ共産主義ノ侵入ヲ防クカ為東北西北辺疆ヲ固ムルコト肝要ナリ自分ハ滿州ニ対シテハ特別ノ興味ヲ有シ赤化ノ中心タル露國ト直面スル東三省ニ於テ仕事ヲ為シ度素志ヲ有スルカ故中央ヨリ命令アレハ東三省ニ赴クモ可ナリト答ヘタリ

白ハ大体右ノ如キ談話ヲ為シタル後辭去シ饑孟任ノミニ、

三十分钟残りタル上饒ハ本使ニ対シ

一、共産主義防禦ノ為日支間ノ共同、經濟提携、国旗問題及ヒ二十一ヶ条ノ四問題ニ付テハ本使ト白トノ間ニ懇談スルコト可然

二、東三省政治分会委員任命ノ場合ニハ其人物ハ日支双方協議ノ上決定スルコトト致度

三、白ハ軍費ニ欠乏シ居レル處日本ニ於テ長蘆塩ノ需要ナキヤ

ノ三問題ヲ提起シタルニ付本使ハ右三問ノ内第二ニ付テハ東三省ノ政治組織ニ付テハ何等「コンミット」シ難キモ仮リニ政治分会ノ如キモノ設立セラルコトニ日本ニ於テ異論ナキ場合委員ノ顔触レハ予メ日本ノ同意ヲ得ルコトトスヘシト云フ意味ナラハ結構ナラムト思ハルモ支那側ニテ果シテ右様ノ決心アリヤト尋ネタル処饒ハ自分一個ノ意見トシテハ仮令ハ陳銘枢來着後陳ト協議ノ上如此意向ナル次第ヲ王澤民ヨリ饒ニ宛テ書面ニテ申送リ饒ハ之ヲ原田ニ示スコトトシテハ如何ト述ヘタルニ付本使ハ其ニテ可ナリト答ヘタル上第三問ニ付テハ本使ハ日本ニテ果シテ塩ノ需要アルヤ承知セサルニ付帰朝取調ノ上回答スヘシト答ヘ置タ

貴下ハ恐ラク知ラサルコトナルヘキモ国民政府へハ逐一報告サレ居リ朝鮮ノ新義州ノ支那人ハ青天白日旗ヲ掲ケ鴨緑江ノ対岸タル滿州領土ニハ五色旗翻ルコトハ如何ニモ可笑シキ話ナリ田中外相ハ列國ヘノ反響ヲ少シモ念頭ニ置カス支那ト日本トノ関係ヲノミ観テ措置セラルル如ク見受ケラレ残念ナリト嘆息セルニ付可然応酬シ置ケリ何等御参考迄

228 昭和3年11月(23)日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛(電報)

南北妥協中止期間終了後も奉天派の態度不変  
の状況について

奉天 本省 11月23日後着 発

第七〇二号

所謂南北妥協三ヶ月延期問題ハ去ル十二日ヲ以テ一応期限到来シタルカ今日迄ノ処外形上從來ト何等変リナク奉派ノ對南態度ハ之ヲ要スルニ今猶不即不離ノ状ニ在リト云フ得ヘシト認メラル素ヨリ其ノ間南方トノ間ニ或ハ代表ヲ交換シ又熱河問題、閔内撤兵問題乃至車輛返還等内外各種事

リ

227 昭和3年10月(27)日 在上海矢田總領事より 田中外務大臣宛(電報)

易幟問題に干渉せざるようとの王正廷の非公式申し入れについて

上 海 本省 10月27日後着 発

\* 第七六六号

王正廷ハ二十六日ノ最後ノ会見ノ際之ハ個人トシテノ意見ニテ何等會議ニハ關係ナキコト乍ラ一言シタシト前提シテ日本政府ハ滿州易幟問題ヲ干渉スルコトヲ止メラレテハ如何支那民衆ノ誤解ヲ招クノミニテ何等実益ナキコトナラスヤト切出シタルニ付本官ハ日本政府ハ易幟問題ニ干渉セシコトナキハ田中外相ノ声明ニ依リテモ明白ナリト答ヘタルニ王ハ呵々大笑シ夫レハ表面ノコトナリ自分ハ裏面ノコトヲ申スナリ林男カ張作霖ノ葬儀ニ列席ストノ名目ノ下ニ奉天ニ赴キ張學良ニ対シ物凄キ談(「テリブル」)ヲ為セルコト其ノ際關東軍司令官ハ軍隊ヲ奉天集中威嚇セルコト等ハ

件ニ付絶エス意見交換或ハ協定ヲ遂ケツツアリテ事實上妥協成立セルト異ナラサル観アルヤニ認メラルモ奉派ノ眞意ハ必スシモ進ンテ妥協提携セムトスルニ非斯寧ロ南方トノ提携ハ艤テ現奉派地盤ニ動搖ヲ来ス虞アルコト南方共產派ノ侵入ニ依ル東三省ノ赤化苛斂誅求ヲ免レサルヘキコト等ニ顧ミ旧派乃至商民一部ノ間ニ却テ妥協ヲ嫌ヘル氣味アリ旁対日關係ヲモ顧慮シ出来得ヘクムハ此ノ儘ニ推移セシムルノ無難ナルヲ知ルカ故ニ今後南方勢力ノ強キ圧迫ナキ限り此ノ際遽カニ易幟問題モ起ラサルヘク唯昨今鐵道問題ニ関連シテ起レル學生團或ハ省議會連合等南北妥協ニ依ル外敵防止ノ声ヲ掲ケツツアリ只今ハ是等運動モ官憲ノ手ニ压ヘラレ居ルモ形勢如何ニ依リ何時ニテモ妥協声明易幟ヲ実現シ得ル用意ハ蔵シ居ル模様ナレハ今後対日交渉乃至對内關係ノ進展如何ニ依リテハ是等ト関連シ本問題再燃スルコトアルモノト觀測セラル前記期限到来ニ顧ミ最近ノ状御参考迄

229 昭和3年12月(8)日 在奉天林總領事より 田中外務大臣宛(電報)





三 東三省の政情と易幟問題

青天白日旗ハ既電ノ通米年一月一日又ハ其ノ前後ヨリ掲揚スルコトニ内定シ居タル模様ナリシカ其ノ後ノ情報ニ依レハ明二十九日ヨリ掲クルコトナリ其ノ旨各方面ニ命令ヲ発シタル趣ナルカ右ノ如ク本年中ニ掲クルコトニ変更セルハ国民政府側ヨリモ民国十七年中ニ全国統一ノ形式ヲ取り度シトノ要求アリシニ依ルモノノ如シ尤モ支那側ヨリハ今迄ノ処何等通告ニ接セス真偽尚確カナラサルモ聞込ミノ儘在支公使ニ転電セリ

北京、上海へ転電セリ上海ヨリ南京へ転電アリタシ

235 昭和3年12月(28)日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

青天白日旗掲揚準備済との王交渉署長の談話

について

奉天 本省 12月28日後着 発

第七五五号

(二三四文書)  
往電第七五四号ニ閔シ

為念藤村ヲシテ王交渉署長ニ其ノ事実ヲ確カメシメタルニ王交渉署長ハ張学良カ東北辺防総司令ニ就職シ之ト共ニ東

236 昭和3年12月(28)日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

二十九日易幟実施について

奉天 本省 12月28日後着 発

第七五六号

(二三五文書)  
往電第七五五号ニ閔シ

省政府会議長張成箕ノ語ル處ニ依レハ二十七日議長公署ニ於テ大官要人連会議ノ上南京政府ヨリ委員任命ノ電報アリ次第旗ヲ掲揚スル事ニ決議シタルカ今二十八日午後南京ヨ

リ張学良以下十三名ヲ委員ニ任命スル趣ノ電報到着シタルニ付愈明二十九日ヨリ青天白日旗ヲ掲クル事トシ其ノ旨各官長ニ通令シ同日ハ官公署ハ一般ニ休庁シ被服廠ニテ製造中ノ青天白日旗ヲ配布シ成ルヘク一般市民ニモ広ク掲揚セシムル事トナレル趣ナリ(上海ヨリ南京ニ転電アリタシ)北京、上海へ転電セリ

那商民中既ニ白日旗ヲ掲揚セルモノ数百軒アリトノ報告アリ一方軍事庁長宋臻ハ学良代理トシテ憲兵司令部ニ至リ警察関係者ヲ召集シテ白日旗掲揚ノ結果或ハ日本側ト意外ノ事端ヲ釀スコトナシトモ限ラサルニ付特ニ注意スヘキ旨申伝ヘタリトノコトナリ支那側ヨリ何等通告ナカリシ点等ヨリ察スルニ予メ日本側ニ予告スルコトニ依リ日本側ノ干渉ヲ恐レタルモノノ如シ

(付記)

12月29日前10時50分発  
12月29日後5時35分着

奉電第二八五号 (昭和4年1月4日外務省写接受)

当地城内ハ本朝一齊ニ青天白日旗ヲ掲ケ官衙ハ国民党旗及

青天白日旗ヲ掲ク

関東、北京、天津、朝鮮、哈市済

奉天城内における青天白日旗掲揚について

奉天 本省 12月29日後着 発

237 昭和3年12月(29)日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

奉天城内の商民数百軒青天白日旗掲揚の情報  
について

付記 十二月二十九日付奉天機関より南参謀次長宛

電報奉電二八五号

奉天城内における青天白日旗掲揚について

奉天 本省 12月29日後着 発

第七五七号

(二三六文書)  
往電第七五六号ニ閔シ

警察側ヲシテ注意セシメ居タル処二十八日夜ニ至リ城内支

東三省の易幟実行に関する国民政府文官長の

三省ノ政治組織ニ改正アリ新国旗ヲ掲揚スル事ハ相違無キモ明二十九日ヨリ実施スルカハ明言出来ス張学良ヨリ電話アレハ明日ヨリモ之ヲ実行シ得ヘク國旗等ハ既ニ準備整ヒ居レリト語レル趣ニテ其ノ他ノ情報モ略同様張学良ハ國旗ノ掲出ノ決定ヲ電話ニテ通知シ直ニ之ヲ実行シ得ル迄ノ準備ヲ為シ居ル事ハ疑ノ余地ヲ有セス其ノ実現ハ単ニ一両日ノ問題ト存セラル

新聞記者に対する談話について

第三九号

南 京 発

第七九三号

奉天発外務大臣宛電報第七四五号ニ閲シ

(一三二文書)  
新聞所報ニ依レハ国民政府文官長ハ昨二十八日夜新聞記者

ニ対シ東三省ハ本二十九日易幟実行ノコトニ決定セル旨語

北京ヨリ奉天へ転電アリタシ

リ居レリ

尚「奉天」ナル名称ハ封建思想ヲ表示スル嫌アルヲ以テ中

央ニ於テハ近ク之ヲ瀋陽又ハ遼東ト改称スル趣ナリ

北京、上海、漢口ニ転電セリ

北京、奉天ニ転電シ哈爾賓、滿州里ニ郵送セリ

### 三 東三省の政情と易幟問題

跡アリ從来ノ関係ヨリ見レハ情誼上事前ニ本官ニ対シ一応ノ話合ヲ為スヲ穩當トスヘキモ過般來ノ南方トノ折衝ノ様子ヲ見ルニ相当ニ日本側ノ干涉ヲ惧レタルモノノ如ク張學良ハ二十八日以來平素極メテ親密ノ間柄ナル江藤豊二ニ対シテスラ会見ヲ避ケントスルノ模様アリテ日本側ニ対スル感情ヲ犠牲ニ供シテモ其ノ南方トノ形式的妥協発表ヲ急キタルカ如シ而シテ昨日來各要人連ノ談話ヲ総合スルニ張作相ノ來奉ニ依リ妥協促進ヲ決定セルハ事實ナルモ易幟期日ニ関シテハ學良ニ一任サレ委員ノ顔触決定セサルニ二十九日易幟ヲ實行シタルモノニテ斯ク年内ニ急遽ニ實現スルニ至リタルニハ其ノ間ニ種々ノ憶測アリ目下真相取調ヘ中ナリ又委員ノ顔触ニ付テハ學良等ハ袁金鑑ノ代リニ楊宇霆ヲ加ヘタキ希望ヲ有スルモ楊ハ妥協促進ヲ好マス委員ニ加ハルヲ受諾セサルモノノ如シ

上述ノ如ク學良ニ依テ易幟ヲ實行スルニ當リ本官ニ対シ何等ノ挨拶ナカリシハ從來ノ情誼上將又東三省ニ於ケル日支ノ關係ヨリ見テ不穩ノ嫌ナキニ非サルモ之レ寧ロ學良ノ真意ノ發露ニシテ彼ハ元ヨリ我ニ対シ特ニ好意ヲ有スルモノニ非ス殊ニ外人ニ対シ絶対ニ口外セサルモ父作霖ノ爆死ニ

付テハ我力陸軍軍人ニ疑ヲ掛ケ相当深ク怨ラ懷キ居ル事想像ニ難カラス從テ今後ハ我國ト南方国民政府トノ関係ニ何等カノ転回ヲ見サル限りハ当地ニ於ケル我方ノ學良等ニ対スル懸案交渉ニ對シ一層不誠実ノ態度ヲ示スニ至ル無キヤノ惧アリ

左リトテ今日更ニ妥協ヲ阻止スルノ不得策ナルハ予テ稟電ノ通ナルヲ以テ數日間ノ経過ヲ見タル上學良ニ対シ去ル七月南方国民政府ニ國際條約ニ對スル義務觀念アルヤ疑ハシク東三省ニ於ケル我力權益ノ重大ナルニ顧ミ暫ク妥協ヲ中止シテ形勢ヲ觀望スルノ得策ナルヲ勸告シタル次第ナルカ南方政府我力國ニ對スル態度カ今尚改善サレサル今日愈易幟ヲ實行セラレタルニ付テハ我力權益保護ニ關シ相當ノ覺悟ヲ有スルモノト思考セラルカ去ル六月以来幾度カ实行ヲ明言セル滿鐵ノ吉会、長大兩鐵道工事契約実施ヲ荏苒今日迄延引シテ尚決セサルハ誠意ヲ欠ク為ナルカ如シ若ン然ラストセハ該契約ノ実施ヲ即時ニ施行セラレタシトノ趣旨ヲ嚴重ニ申込ム積リナルニ付右御承知置キアリタシ

243 昭和3年12月30日

田中外務大臣より  
在英國佐分利臨時代理大使宛(電報)  
在米國出淵大使

#### 東三省全域に青天白日旗掲揚について

本省 12月30日後発

\* 合第五四二号

東三省ト国民政府トノ妥協問題ハ最近急速ニ進捗シ來ル一月一日ヨリ東三省モ青天白日旗ヲ掲タルコトニ内定シ居タル模様ナリシカ其ノ後十二月二十九日ヨリ掲揚ノコトニ変更セラレ二十八日各方面ニ命令ヲ發シタル趣ニテ二十九日ニ至リ奉天、吉林、黒龍江ノ三省全部ニ亘リ青天白日旗掲揚セラレ張學良、張作相、萬福麟、湯玉麟、翟文選、常蔭槐ハ同日連名ヲ以テ南京中央黨部及国民政府各委員等ヲ始メ各方面ニ對シ同日ヨリ三民主義ノ遵守ヲ宣布シ国民政府ニ服従シ旗幟ヲ改メタル旨ノ通電ヲ發シタリ右ノ如ク急速ニ易幟ノ實行セラレタルハ国民政府側ヨリ民國十七年中ニ

全國統一ノ形式ヲ取リ度シトノ要求アリシニ依ルト称セラル

我方ニ対シテハ右ニ付張學良ヨリ未タ何等ノ通知モナキ次

245 昭和3年12月31日

在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

\* 合第五四五号

田中外務大臣より  
在英國佐分利臨時代理大使宛(電報)  
在米國出淵大使

#### 国民政府令を以つて張學良を東北邊防總司令

本省 12月31日後発

(二四三文書)  
往電合第五四五二号ニ關シ

在南京領事來電ニ依レハ二十九日国民政府令ヲ以テ張學良ヲ東北邊防總司令ニ萬福麟及張作相ヲ同副司令ニ又奉天、吉林、黑龍江ノ各省政府主席ニ各現省長タル翟文選、張作相、常蔭槐、右各省府委員各十一名、熱河省政府主席ニ湯玉麟及府委員六名ヲ任命シタル趣ナリ

## 青天白日旗掲揚および政治組織改変に関する

### 楊宇霆の談話について

奉天 発

本省 12月31日後着

東三省ハ既電ノ通新国旗ヲ掲揚セシ儘未タ新制度モ其ノ首脳者ノ顔触モ発表シ居ラサル處這般ノ事情ニ関シ三十日

楊宇霆ノ藤村ニ語レル処左ノ通

今回ノ国旗掲揚及新制度ノ組織モ楊本人ハ直接其ノ相談ニ与カリ居ラサルモ国民政府ハ十二月二十八日張學良ヲ東北辺防司令長官ニ張作相及萬福麟ヲ同副司令ニ任命発表スル内報アリ急ニ二十九日新国旗及国民党旗ヲ掲揚セシ趣ナル因果シテ其ノ任命発表有リシヤ未タ承知セス又新制度ハ熱河ハ独立省トナリ北平政治分会ニ隸属シ東三省ハ東北政務委員会ニ統轄シ国民政府ヨリ何成藩外一二名ヲ加ヘ其ノ他ハ東三省現在ノ軍民両長官（吉林ハ作相省長兼任ノ為一名）熱河ノ主席湯玉麟、袁金鎧、王樹幹、劉尚清、劉哲、莫德惠等十三名乃至十五名ヲ政務委員トシ奉天、吉林及黑龍江ノ三省ニハ省政務委員九名乃至十三名ヲ置キ其ノ主席

ニハ各省長ヲ任命スヘク内聞セリ

又張學良カ蔣介石ノ要求ヲ容レテ急ニ新国旗ヲ掲揚シタルハ南方ノ形勢變化等ニ注意ヲ払ハス又東三省カ之カ為ニ國民党下ノ急進運動ヲ來ス等ノ影響ヲ顧慮セサル傾向ニシテ自分モ甚タ不満足ニ感シ居ル処ナリ自分ハ新制度ニハ参加シ居ラス又其ノ任命アルモ之ヲ受ケサル考ナリト称シ頗ル不平ノ口吻ヲ漏シタル趣ナリ

宇霆カ如上ノ通り果シテ国旗及政治組織ノ変更ニ何等与リ知ラサリシトハ張學良ニ対シ本人トノ從来ノ関係ヨリ見テ首肯シ難キ処ナルト共ニ楊カス（ノ如キ）言辞ヲ用ヒテ学良ノ輕挙ヲ云々シ居ルハ去ル二十八日來楊カ張學良ニ対シ国旗掲揚ノ不可ヲ唱ヘテ激論ヲナシタリトノ情報ヲ日本人側ニ流布スルモノアルニ顧ミ同人カ日本人側ノ感情ヲ迎合緩和スル為ノ甘言ト察セラル御参考迄

246 昭和4年1月(1)日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

青天白日旗掲揚に關し事前に何らの諒解を得  
ざりしは遺憾である旨張學良に対する抗議に

### ついて

奉天 発  
本省 1月1日前着

\*  
第七六六号  
貴電(二十四文書)  
第一七四号ニ閏シ

今三十一日張學良ニ會見シ御訓令ノ趣旨ヲ篤ト申入レタル処学良ハ就任當時ヨリノ行キ掛リヲ無視シタル訳ニハアラサルモ本年七月南北妥協ニ閏シ日本側ノ意向ヲ伺ヒタルコトカ日本政府側ヨリ発表セラレタル結果支那国民ヨリ非難ヲ受ケ甚タシキハ非國民ト迄モ罵ラレタル事実ニ鑑ミ今回ノ新国旗掲揚問題等ニハ事前何等ノ通告モ為ササリシ次第ナレハ此ノ辺惡カラス諒解ヲ得タシト弁疏セリ

依テ本官ハ事情ハ別トシ今回ノ新国旗掲揚ハ東三省ノ政治組織ニ大改変ヲ來ス前提トシテ其ノ運用ノ如何ハ日本ノ條約上將又協約ニ依リ実施又ハ実施セムトスル日本ノ權益ニ

テ遺憾トスル処ニシテ學良之迄ノ言質カ虛偽ナリシカトモ疑ハサルヲ得ス果シテ誠意ナキモノトセハ帝国政府ハ今后重大ナル影響ヲ來スヘキモノト認メラルニ拘ワラス事前

247 昭和4年1月9日 在中國堺臨時代理公使より  
田中外務大臣宛  
公第一三号  
東三省易幟問題に關する張繼の演説について  
昭和四年一月九日  
(1月18日接受)

在支那  
臨時代理公使 堀 義貴（印）  
外務大臣男爵 田中 義一殿

## 東三省易幟問題等ニ関スル張繼ノ演説報告ノ件

北平政治分会主席張繼ハ本月七日同会記念週ニ於テ東三省易幟問題編遣會議等ニ関シ講演シタル趣ニテ右講演ハ八日ノ各支那紙ニ掲載セラレタルカ其ノ中日本ニ関係アル事項トシテ

一、東三省當局ハ今回突如吾党ノ主義感化ニ依リ易幟ヲ実行シ三民主義ニ服従セルカ是ニ依テ見レハ東三省人民カ元来易幟ヲ欲セサリシニ非スシテ實際ハ日本軍閥カ東三省ニ対シ莫大ノ野心ヲ抱懷シ東三省ト吾党ノ合作ハ日本ニ不利ナルヘキヲ虞レ之ヲ阻止シ居リタルモノナルコトヲ知ル

一、東三省ハ今回易幟セリト雖同地ハ積年日本ノ侵略ヲ受ケ一切ノ交通金融商業ノ各機關ハ多ク日本ノ掌握スル所ナリサレハ吾人ハ同地同胞ニ対シ十二分ノ同情ト援助ヲ与フヘキナリ曩ニ張作霖ハ其ノ人格国人ノ久シク唾棄スル處ナリシモ遂ニ東三省ヲ挙ヶテ壳ルヲ肯セサリシ故ヲ

以テ日本ノ為爆弾ヲ投セラレ死亡セリ張ノ一生ニ亘ル親日モ遂ニ日本ノ歎心ヲ得ル能ハサリシナリ其ノ張ニ及ハサル者ニシテ恐怖ノ為敢テ日本ト親シマサルハ當然ナリ一、支那ノ如キ大国ヲ治メムトスルニハ總理ノ均權主義ニ依ルヲ要ス即中央政府ト地方政府ノ權限ヲ明ニ区画スルモノニテ彼ノ中央集權制ハ小國ニ適スルモ大國ニハ不適当ナリ從前日本ハ維新以来數十年國政發展シ且隣國ナレハ日本ノ制度ニ倣ハハ必ス強國タルヲ得ヘシトノ論ヲ為スモノ多ク中央集權ニ依リ統一ヲ計ラムト企図セルモ其ノ結果ハ予期ニ反セリ余ハ分治合作ニ依リ統一スヘシトナスモノナリ

ト述ヘ居レリ委細別添原文ニテ御承知有度右何等御参考迄報告ス

本信写送付先 奉天、上海

## 四 国民革命軍の北伐関係

248

昭和3年1月24日 在漢口高尾總領事より

田中外務大臣宛

## 馮玉祥の動静について

(2月8日接受)

公信第三四号 昭和三年一月二十四日

在漢口

総領事 高尾 亨(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

河南ニ於ケル最近ノ状況報告ノ件

本件ニ関シ最近河南省鄭州ヨリ帰來シタル邦人西崎孫市ノ談話要領左記ノ通り何等御参考迄報告ス

記

## 一、軍事方面

徐州方面ニ於テ勝チタル馮軍ハ今ヤ得意ノ状態ニアリ津浦線ノ南京軍ト連絡シタルタメ其軍ノ一部ヲ返シテ鄭州ヨリ京漢線ニ沿ヒテ北進ヲ開始シ其先鋒ハ既ニ直隸省境

ニ進出シツツアリ馮軍ハ目下新兵ノ大募集ヲ行ヒツツアリ此ハ本年三月ニ露国ヨリ小銃一万挺到着スル筈ニテ兵力拡張ノ準備ナリト云フ  
馮玉祥ト露国トノ関係ニツキ表面ニ表レタル処ヲ見ルニ蒙古ヲ経由スル露国トノ交通ハ自働車ヲ以テ相当頻繁ニ行ハレ居ルト認メラレ最近漢口ヨリ露国ニ輸出スル磚茶ハ京漢線ニ依ツテ鄭州ニ送ラレ同地ヨリ隴海線ニテ陝西省境ニ運ヒ自働車ニテ蒙古ヲ経テ露国ニ送リツツアリト云フ  
從前ヨリ馮ニ從ヒ居ル露人顧問三名ハ今尚ホ依然トシテ鄭州ニ在リ軍事ノ画策ニ任シ居ル由ナリ

## 二、政治方面

從来馮玉祥ハ共産黨員ニ対シ極メテ寛大ノ態度ヲ取り居タルモ最近南方ノ清党運動ニ刺激サレ共産黨員ニ対シ断乎タル処置ヲ取ル旨ヲ声明シタルカ未タ具体的ニ処置セル事実ヲ聞カスト